

構造関係共通事項

1. 構造設計条件

(1) 地震力	標準せん断力係数	Co = 0.2 (一次設計)	
	地震地域係数	Z = 0.9	
	地下震度	K = 0.1	
(2) 風圧力	速度圧 $q = 0.6EVo^2$	基準風速	Vo = 30 m/s
	地表面粗度区分	Ⅲ	
	風力係数	告示 平2 建告第1454号 第3 による	
(3) 積雪荷重	垂直最深積雪量	130cm 多雪区域	
	1cm 当りの単位重量	30.0 N/m ² cm	
	長期	130x30x0.7 = 2730 N/m ²	
	短期 (積雪時)	130x30 = 3900 N/m ²	
	短期 (地震時)	130x30x0.35 = 1365 N/m ²	
(4) 土圧	土の単位体積重量	18.0kN/m ³	地下水位 設計GL -2.34 m (地盤調査No.1 より)

部 位	床	小 梁	梁・柱	地 震	部 位	床	小 梁	梁・柱	地 震
屋根・庇	2730	2730	2730	1365	プール	300	300	250	150
室外機置場	2730 4900	2730 4900	2730 2400	1365 1300	プール配管ピット キャットウォーク	1000	1000	600	400
玄関ホール・ポーチ デッキテラス	3500	3500	3200	2100	用具庫	7800	7800	6900	4900
ブルサイド シャワー室	3500	3500	3200	2100	機械室	5900	5900	4900	3900
スロープ・階段	3500	3500	3200	2100					
事務所・廊下 更衣室・脱衣	2900	2900	2100	1100					

(6) 特殊荷重 (kN)					
名 称	階	重 量	名 称	階	重 量

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

使用箇所	種 類	設計基準強度 Fc (N/mm ²)	所要スランブ (cm)	備 考
基礎部躯体	普通	* 27.0	15	
1階床	普通	* 27.0	18	
上部躯体	普通	* 27.0	18	キャットウォーク含む
パラベット	普通	* 24.0	18	
後打階段・スロープ	普通	* 24.0	18	ポーチを間・プール室外部土間階段 機械室階段
縦コン	普通	21.0	18	機械基礎・ハト小屋・77J/A・煙突 口・手洗い
防湿コン	普通	18.0	15	
捨てコン	普通	18.0	15	

*印の設計強度は設計基準強度 (Fc) + 構造体強度補正値 (S) とする。
主要構造部は、柱、梁、壁、スラブを示す。
縦コンを主要構造部と一体打ちする場合は、主要構造部の強度に合わせる。
階段手摺のコンクリート強度は、附属する階段の強度にならうものとする。

(2) コンクリートブロック (CB)

種類	厚さ	使用箇所	備 考

(3) 鉄筋

異形鉄筋	種 類	径	使用箇所	継手工法
	SD295A	D10～D16	せん断筋・基礎筋・スラブ壁筋	重ね継手
	SD345	D19～D25	柱梁主筋	ガス圧接継手
	SD390	D29	柱主筋	ガス圧接継手
ガス圧接の工法				

3. 共通事項

(1) 構造図に記載なき事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

公共建築工事標準仕様書 (令和7年版) 「以下標仕」、
建築鉄骨設計基準及び同解説 (平成10年版) による。

(2) 鉄筋の断面表示

記号	●	×	◇	●	○	◎	⊠
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29

(3) 各階伏図における記号は下表による。

記 号	説 明	記 号	説 明
○	スラブの配筋種別	◇	スラブ厚さ
▤	コンクリートブロック壁 (CB壁)	⊠	スラブ開口
[±]	FLからの上がり下がり	(±)	FLからの梁の上がり下がり

(4) 配筋の種別及び かぶり厚さ

- a: 壁、スラブ、階段等の配筋種別は、標仕 各部配筋参考図 (4.1) ～ (6.2) による。
b: 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔は、標仕 5.3.5による。
c: 目地にシーリングがある場合の最小かぶり厚さは標仕 (表5.3.6) の「仕上げなし」の項による。

(5) 鉄筋の継手及び定着

鉄筋の継手及び定着は、標仕 5.3.4による。

(6) 骨材、水及び混和材料

骨材、水及び混和材料は、標仕 6.3.1による。

(7) コンクリートの強度試験方法

コンクリートの強度試験方法は、標仕 6.9.3 ～ 6.9.5による。

(8) コンクリートの調合

コンクリートの調合は、標仕 6.3.2による。

(9) コンクリートの養生

コンクリートの養生は、標仕 6.7.1 ～ 6.7.3による。

(10) コンクリートの型枠の取外し時期

コンクリートの型枠の取外し時期及び方法は、標仕 6.8.4による。

(11) コンクリートの打継ぎ

コンクリートの打継ぎ位置、打継ぎ部の処理法、及び補強筋の有無は監理者の確認を要する。

4. 地業工事

(1) 直接基礎

根切底 GL - m
地盤の許容応力度 (長期) kN/m²
平圧載荷試験 有・無 (位置は別途指示)

(2) 杭基礎

工 法 プレボーリング拡大根拠の摩擦杭工法 (大臣認定工法)

杭径・材料・種別 400550φ: 上杭: 400550φ10m (PHC105M-C種)
+ 下杭: 400550φ11m (PHC105M-A種)
500650φ: 上杭: 500650φ10m (PHC105M-B種)
+ 下杭: 500650φ11m (PHC105M-A種)
600750φ: 上杭: 600750φ10m (PHC105M-B種)
+ 下杭: 600750φ11m (PHC105M-A種)
700900φ: 上杭: 700900φ10m (PHC105M-B種)
+ 下杭: 700900φ11m (PHC105M-A種)

杭先端 設計GL-21.65m/-22.0m/22.25m/22.4m

杭の許容支持力 (長期) 400550φ: 1340 kN/本
500650φ: 1700 kN/本
600750φ: 1990 kN/本
700900φ: 2440 kN/本 以上とすること。

許容支持力算定式 Ra=1/3 × {α・N・Ap + (β・Ns・Ls + γ・Qu・Lc)・φ}
α: 280 以上
β: 認定による
γ: 認定による

杭工事業者: 杭工事業者は、工事に相応した技術を有することを証明する資料 (支持力計算含む)、
監理者に提出し、承諾を得ること。
施工のために必要となる杭頭杭先端金物を適宜、全杭について見込むこと。

施工計画書: 杭工事施工計画書を作成し、監理者の承諾を得ること。

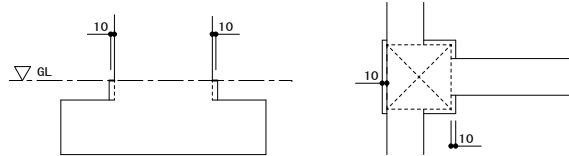
5. 鉄筋コンクリート工事

(1) 杭基礎

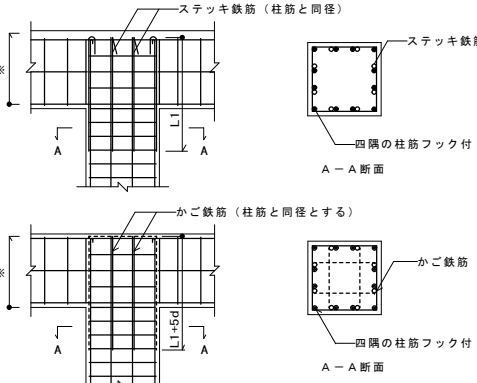
杭の偏心及び高とまりした場合は、監理者と協議すること。
杭のヘリあきは1.2D以上を確保する。

(2) 柱

a: 土に接する柱周囲の増打ちは下図による。



b: 柱頭で梁内に定着 (L2) がとれない場合 (※) の補強は下図による。

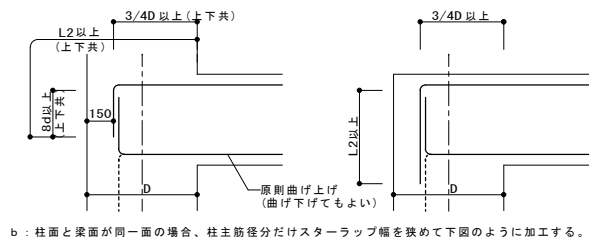


c: 柱増打ち部分に壁、梁、床版等がとりつく場合、それらの定着長さには増打ち厚さを含まない。

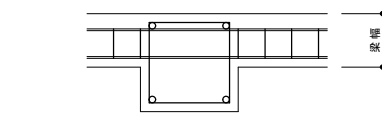
d: 柱増打ち部の記載なき軸方向補強筋の定着長さは20d以上とする。

(3) 梁

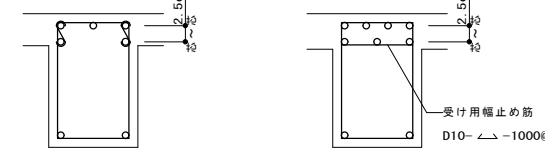
a: 大梁主筋の定着寸法および逃げ寸法の標準値は下図による。



b: 柱面と梁面が同一面の場合、柱主筋径分だけスターラップ幅を狭めて下図のように加工する。



c: 梁主筋2段配筋では、2段目の鉄筋も主筋として所定の位置に下図のように正しく配筋する。



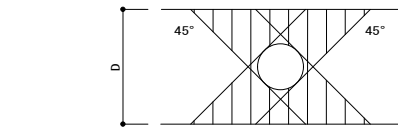
d: 梁増打ち部分に床、壁、梁等がとりつく場合、それらの定着長さには増打ち厚さを含まない。

e: 梁の増打ちが途中で終わる場合、軸方向補強筋の定着長さはL2とする。

f: 梁貫通孔の補強に、建設技術評価規定に基づく評価または日本建築センターの評価を受けた製品を監理者の承諾により使用してもよい。使用にあたってはあらかじめ監理者と打ち合わせを行うこと。

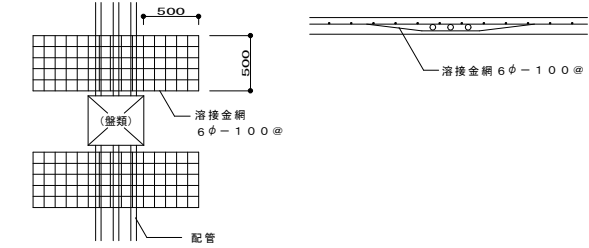
孔径が200mmを超える場合、孔の上下にあばら筋と同径・同ピッチの補強筋を入れること。

g: 貫通孔の位置は下図のように開孔をはさむ±45度の領域には他の開孔を設けないこと。

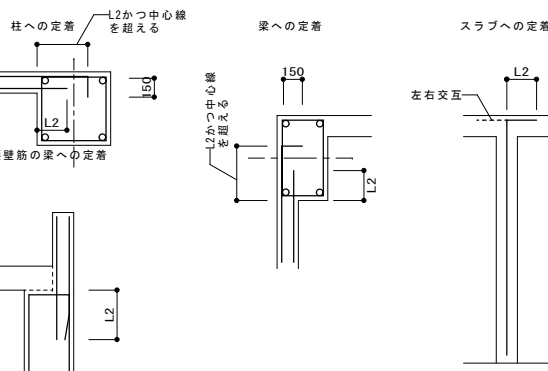


(4) 壁 (RC壁)

- a: 6M以上6M以下は耐震壁を示し、配筋は4M以上4M以下に同じでかぶり厚さ、継手及び定着長さは標仕 表5.3.3～5.3.4、標仕別冊 4.2～4.3による。
b: パラベット壁の厚さは100とする。配筋は特記による。
c: 1) 開口補強 (設備開口を含む) は特記による。特記がなければ、一般壁はA形、耐震壁B形とする。
2) シングル配筋の壁で壁脚が埋設される場合は、下記補強を行う。



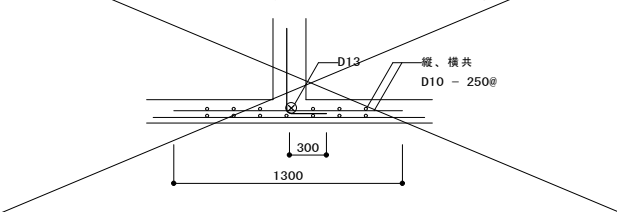
d: 壁筋の柱・梁内への定着は下図による。



e: 増打ち部分に壁、床版等がとりつく場合、それらの定着長さには増打ち厚さを含まない。

(5) 床版

a: 1階のRC壁下に基礎小梁がない場合、土間コンクリートに下図の補強を行う。

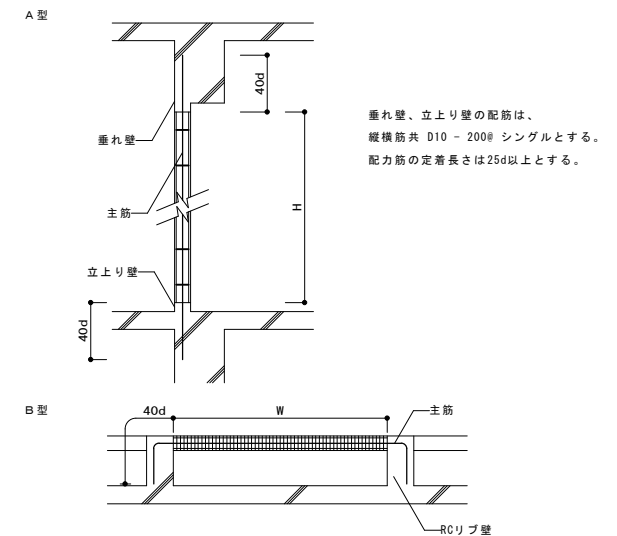


(6) 雑配筋

a: コンクリートブロック 横壁 (CB)

CBの積み高さ (H) 又は積み巾 (W) は下表の値を最大とし、その上又は下に同じ厚さのRC壁、若しくはその両側にRC控壁を設ける。
なお、RC控壁は標仕 別冊 各部配筋 (7.3) による。
記載なき限り、下記に示すA型を用いる。

C Bの厚さ	100	120	150
H又はWの最大値	2400	3000	3400



6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨

種 類	使用箇所
SN490B	柱・小梁・スチフナープレート・リブプレート・スプライズプレート
SN400B	柱
SS400	小梁・座屈止め・水平ブレス・ガセットプレート
SN490C	ベースプレート
STKN490B	方杖
SSC400	折版受け
STLR400	タイトフレーム受け
鋼 材 (溶融亜鉛めっき)	※コンクリートに打ち込まれる部分以外は溶融亜鉛めっきとする

(2) ボルト

ボルト名	種 類
高力ボルト	S10T・F8T
アンカーボルト	ABR400・ABR490
普通ボルト	4T(強度区分4.6以上)ゆるみ止め仕様

(3) その他

現場溶接 (有) ・ 無

(4) 製作工場

建築基準法第77条の4第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「Mグレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場

(5) 防錆塗装

素地調整 C種
防錆塗装 A種 JIS K 5674 1種 2回塗り
溶融亜鉛めっき (有) ・ 無 HDZT77以上(板厚 6mm以上)
HDZT63以上(板厚3.2mm以上)
HDZT49以上(普通ボルト・ナット・アンカーボルト)

(6) 接合部の検査

溶接部の検査(検査結果は後日監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備 考
		社 内	第三者	工事監理者	
突合せ溶接部 (完全溶込み溶接部)	超音波探傷試験	100 %	* %	— %	
	外観(目視)検査	100 %	100 %	— %	
	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名	C I W認定業者				
第三者検査機関とは、建築主、監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう					

注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。

* 印の検査水準は第6水準A O Q L 4 %とする。

(7) 現場溶接

主要構造部材への現場溶接は、原則として行わないものとする。
ただし、必要性が生じた場合は監理者の承諾を受け標仕7.6.3により、適正な溶接工が作業を行うものとする。
※方杖の溶接は、AW検定の有資格者とする。(投量試験は省略)

(8) 溶融亜鉛めっきを行う場合の修正及び補修

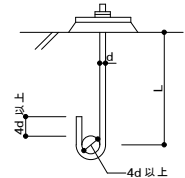
- a：溶融亜鉛めっきにより、許容誤差以上の歪み、ねじれ等がある場合は、鉄骨精度測定指針(日本建築学会)による許容誤差以内に修正する。
b：運搬中の衝撃、摩擦、ビス止め等による亜鉛めっき部分の損傷箇所および切断面等の不めっき箇所の補修は標仕表14.2.4による。

(9) 普通ボルト接合

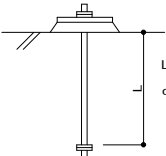
母屋・胴縁類の取り付け用ボルトを普通ボルト接合とする場合、ゆるみ止め(2重ナット等)を設けること。

(10) アンカーボルト等の定着

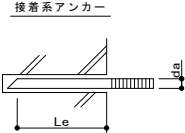
・フック付きの場合



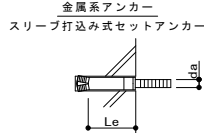
・定着板及びナット付きの場合



・あと施工アンカーの場合

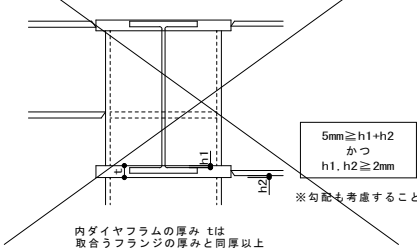


※引張試験の抜取り数、試験耐力は監理員との協議による

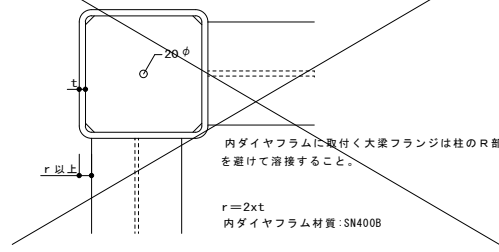


da：アンカー筋の呼び名または径
Le：アンカー筋の有効埋込み長さ
Le ≥ 6da とする

(11) ダイアフラム厚 要領図



(12) 内ダイアフラム時の梁の寄り



内ダイアフラムに取付く大梁フランジは柱のR部を避けて溶接すること。

r = 2xt
内ダイアフラム材質：SN400B

溶接基準図

HT1	レ形突合わせ	HB1	レ形突合わせ	F2	隅肉溶接	F1	隅肉溶接																						
6<t≤ 32		6<t≤ 32		t ≤ 16		t ≤ 16																							
$\frac{1}{4} t \leq S \leq 10$		FB-9x38		<table><tr><td>t</td><td>6</td><td>~9</td><td>~12</td><td>~16</td></tr><tr><td>S</td><td>せん断仕口</td><td>5</td><td>7</td><td>9</td><td>12</td></tr></table>		t	6	~9	~12	~16	S	せん断仕口	5	7	9	12	<table><tr><td>t</td><td>6</td><td>~9</td><td>~12</td><td>~16</td></tr><tr><td>S</td><td>せん断仕口</td><td>5</td><td>7</td><td>9</td><td>12</td></tr></table>		t	6	~9	~12	~16	S	せん断仕口	5	7	9	12
t	6	~9	~12	~16																									
S	せん断仕口	5	7	9	12																								
t	6	~9	~12	~16																									
S	せん断仕口	5	7	9	12																								
FL2	フレア溶接	梁端部ノンスカラップ工法要領図				スチフナー・GR の端部																							
・フレア溶接を行う場合の溶接長さ 鉄筋又は軽量形鋼にフレア溶接を行う場合は下図による L：片面フレア溶接の場合 10d ：両面フレア溶接の場合 5d La及びLb=1S（鉄筋については2d）以上 d：異形鉄筋の呼び名に用いた数値 S：溶接のサイズ 有効溶接長さ（L）は、ビードの始点（La）及びクレーター（Lb）を除いた部分の長さとする		国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 建築工事監理指針（令和4年版）による。 裏当て金 FB-9x25 (SN490B) 裏当て金 FB-9x25 (SN490B) $e = 25 (t \leq 28)$ $30 (t > 28)$ L1, L2:柱と通しダイヤフラムの溶接部と干渉しない寸法とする L3 :通しダイヤフラムに干渉しない寸法とする																											

裏当て金・エンドタブ要領

(裏当て金要領)	(エンドタブ要領)
エンドタブ：裏当て金に取り付ける 分割形裏当て金 分割形裏当て金：フィレットの形状に合わせる 裏当て金取付け溶接を施す部位 隅肉溶接 S=4~6mm 1パス 長さ=40~60mm程度とする ・ロールH,BHでrが大きい場合 ・ロールH,BHでrが小さい場合 ・同時BHの場合	母材との組立溶接(開先内) 裏当て金との組立溶接

	36mm未満	36mm以上
A	12x38	12x50
B	9x38x70	9x50x70

- ・エンドタブは裏当て金に取り付けることとし母材に直接取付ないこと。
- ・エンドタブは切断が望ましいが、切断しない場合は設計担当者の承諾を得ること。(切断する場合は5mm以下で残して切断し、グラインダーで仕上げる)
- ・代替エンドタブの使用は可とする。(監理者の承諾を得ること)

- 鉄骨図面に記載なき事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修・建築構造設計基準及び同解説(平成16年版)または、日本建築学会・建築工事標準仕様書JASS6 鉄骨工事による。
- 本溶接基準図は特記なき場合は、手溶接又はCO2半自動溶接とする。
- 溶接材料の強度は母材の強度以上とする。
- 裏当て金の材質は母材と同等以上の材を使用することを原則とする。取付は断続隅肉溶接とする。
- 裏当て金のない完全溶込み溶接は裏はつり後、裏溶接とする。
- エンドタブの材質は母材と同等以上の材とし、形状は同厚、同開先のものを使用することを原則とする。
- 余盛りの値fは次のように定める。
 - 突合せ溶接 $0.5mm \leq f \leq 3mm$
 - 隅肉溶接 $f \leq 0.1S+1mm$
- 組立溶接の脚長は4mm以上、ビード長さは40mm以上とし母材の開先内には行わない。

※ノンスカラップ工法とする

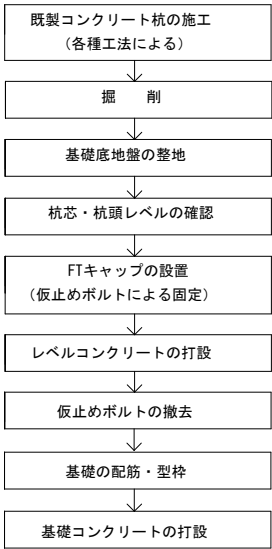
■構法概要

1. 本構法は、地震時の杭基礎の損傷低減を目的とした杭頭接合方法であり、既製コンクリート杭に用いる。
2. 杭頭を基礎（パイルキャップ）へ50～150mmの範囲で埋め込み、埋め込み部分において杭外周部とパイルキャップの界面にテーパー状のクリアランスを設ける。
3. 杭頭接合方法は、地震時に杭頭に引抜き力が作用しない箇所に適用する標準タイプと、引抜き力が作用する箇所にも適用できる引抜き対応タイプの2タイプがある。

■使用材料（適用範囲）

- ・杭 ： 各種の既製コンクリート杭（PHC杭、SC杭、PRC杭、RC杭 等）
- ・杭径 ： 300mm～1200mm
- ・コンクリート（基礎（パイルキャップ）部） ： 普通コンクリート 設計基準強度：18～60 N/mm²
（法第37条第一号もしくは第二号に該当するコンクリート）

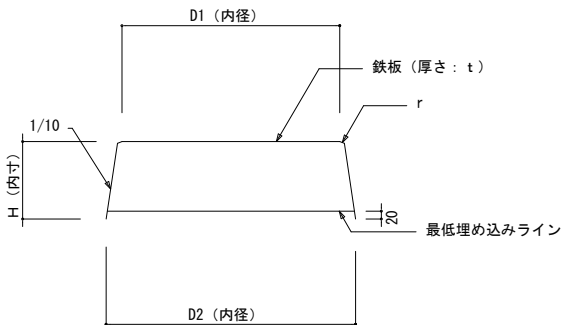
■施工手順



＊留意事項

- ・施工開始前に施工計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。
- ・F.T.Pile構法の施工は、FTキャップ設置前にパイルメーカーによる施工説明・指導を受けた後、実施する。
- ・FTPの刻印があるFTキャップ（テーパー型枠）を使用すること。
- ・FTキャップの受入時にはFTPの刻印と変形や損傷の有無を確認する。
- ・既製コンクリート杭の設置に先立ち、杭頭の端板のボルト孔に泥土が入らないように養生を行う。
- ・杭頭レベルの誤差が品質管理許容差を超えた場合には、工事監理者・設計者と協議のこと。
- ・FTキャップを設置する際は、杭周囲の碎石等のレベルが周辺よりも高くなっていないことを確認する。
- ・FTキャップ設置後に木槌等でFTキャップを軽打し、端板との間に小石・砂等により、浮き・隙間が生じていないか確認する。
- ・レベルコンクリート打設前にFTキャップの最低埋め込みラインが隠れるまで碎石または現地発生土に埋め込まれているか目視確認する。
- ・仮止めボルトは、レベルコンクリート硬化後に撤去する。
- ・FTキャップの上には原則として基礎配筋用のスペーサー等を置かないこと。
- ・施工完了後、施工結果を「施工チェックシート」に記録し、工事監理者に提出すること。

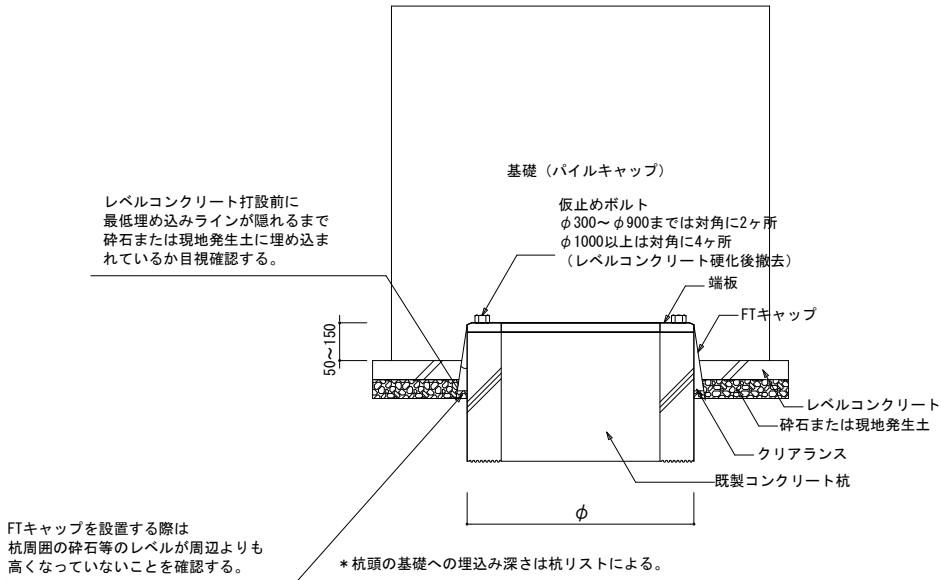
■FTキャップ（テーパー型枠）仕様

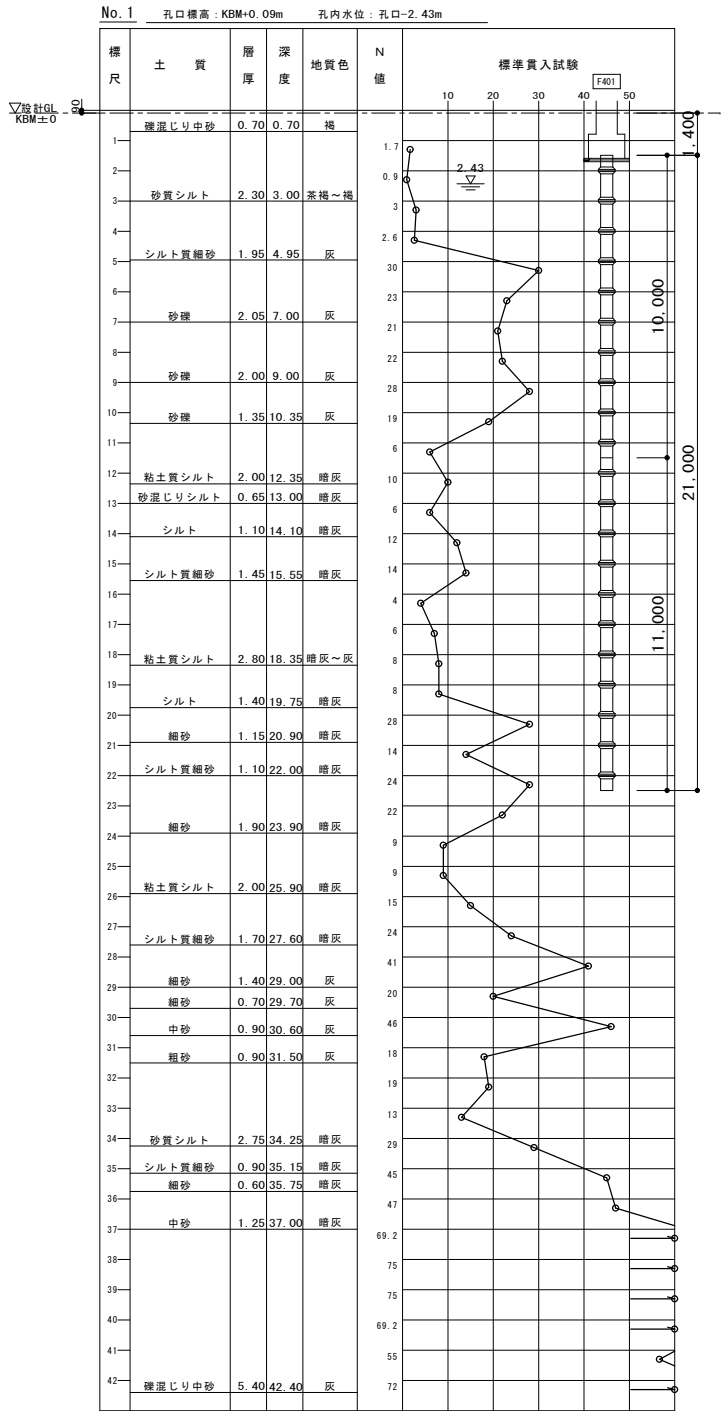


杭径：φ	鉄板厚さ：t（mm）	D1（mm）	D2（mm）	H（mm）	r（mm）	W（kg）
300	1.2	301	345	201	2.0	1.8
350	1.2	351	395	201	2.0	2.3
400	1.2	401	445	201	2.0	2.7
450	1.2	451	495	201	2.0	3.2
500	1.2	501	545	201	2.0	3.8
600	1.6	601	645	201	2.0	7.2
700	1.6	701	745	201	2.0	9.0
800	2.0	801	845	201	2.0	13.8
900	2.0	901	945	201	2.0	17.4
1000	2.3	1001	1045	201	2.0	23.9
1100	3.2	1101	1145	201	2.0	38.6
1200	3.2	1201	1245	201	2.0	44.3

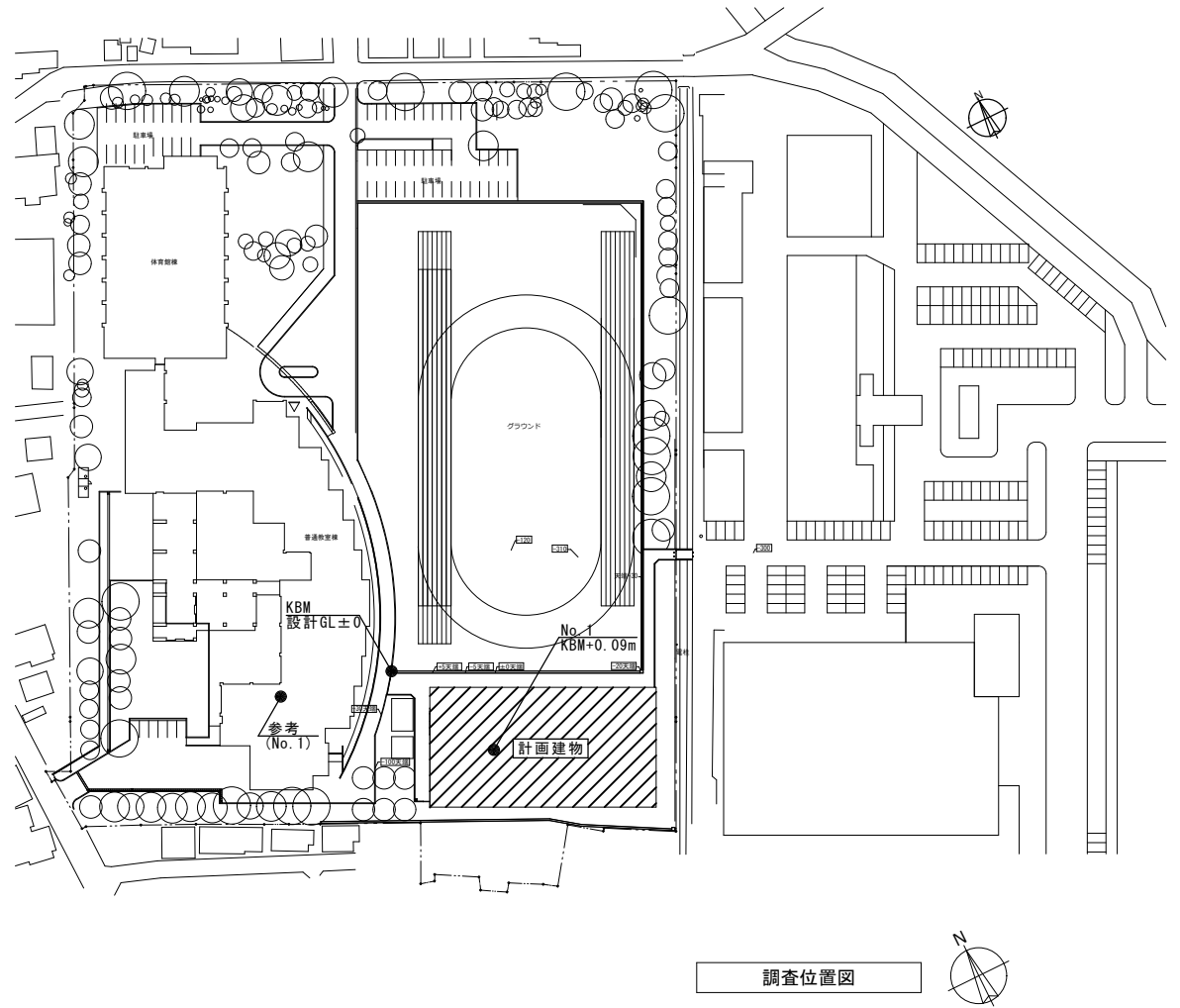
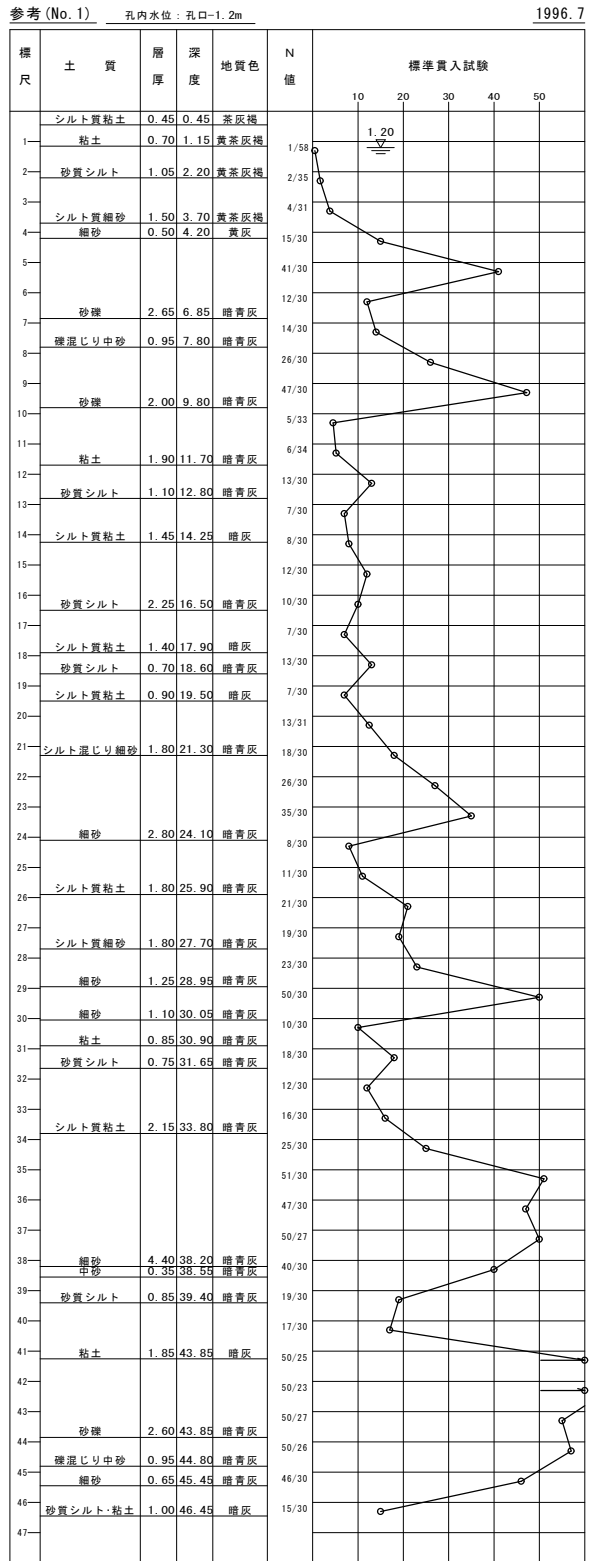
- ＊FTキャップの品質管理は製作工場で行われているため、施工時には下記の確認を行う。
- ・FTキャップに「FTP」の刻印があること。
- ・FTキャップに変形や損傷がないこと。

■杭頭部詳細図





ボーリング柱状図



調査位置図

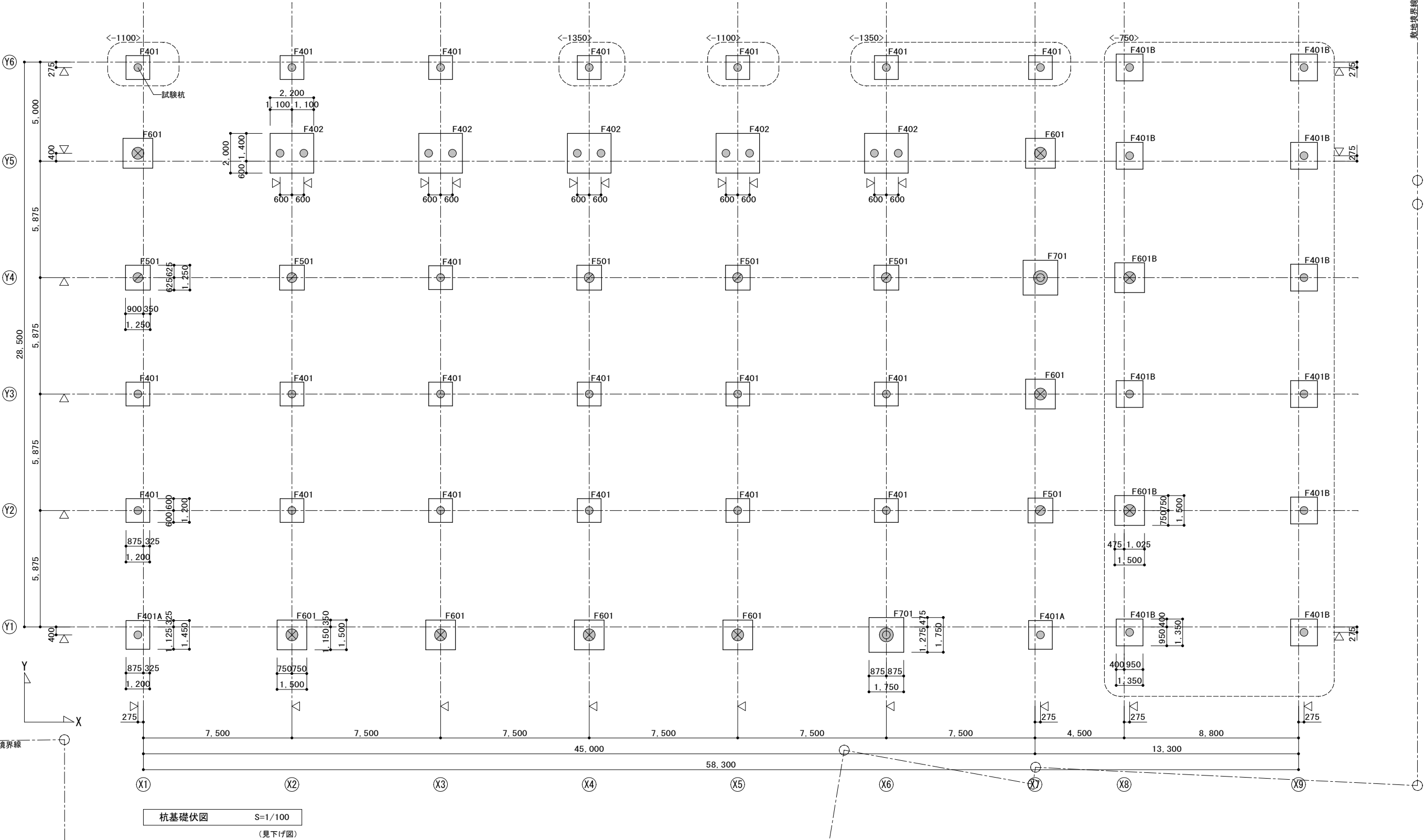


杭仕様

工 法	プレボーリング根固め摩擦杭工法(大臣認定工法)											
杭 種	● P40			⦿ P50			⊗ P60			◎ P70		
上 杭	400550φ:PHC節杭105N C種 10m			500650φ:PHC節杭105N B種 10m			600750φ:PHC節杭 B種 10m			700900φ:PHC節杭 B種 10m		
下 杭	400550φ:PHC節杭 A種 11m			500650φ:PHC節杭 A種 11m			600750φ:PHC節杭 A種 11m			700900φ:PHC節杭 A種 11m		
支持力	1340 kN			1700 kN			1990 kN			2440 kN		
	基礎符号	基礎数	杭本数	基礎符号	基礎数	杭本数	基礎符号	基礎数	杭本数	基礎符号	基礎数	杭本数
	F401	20	20	F501	6	6	F601	7	7	F701	2	2
	F402	5	10				F601B	2	2			
	F401A/F401B	12	12									
	合計		42	合計		6	合計		9	合計		2

特記外は下記による

杭芯を示す	
設計GL	1FL-1200
基礎下端	設計GL-1500 1FL-2700
	< >は設計GLからの基礎下端を示す
杭天端	基礎下端+100

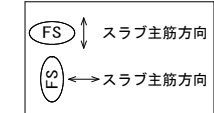
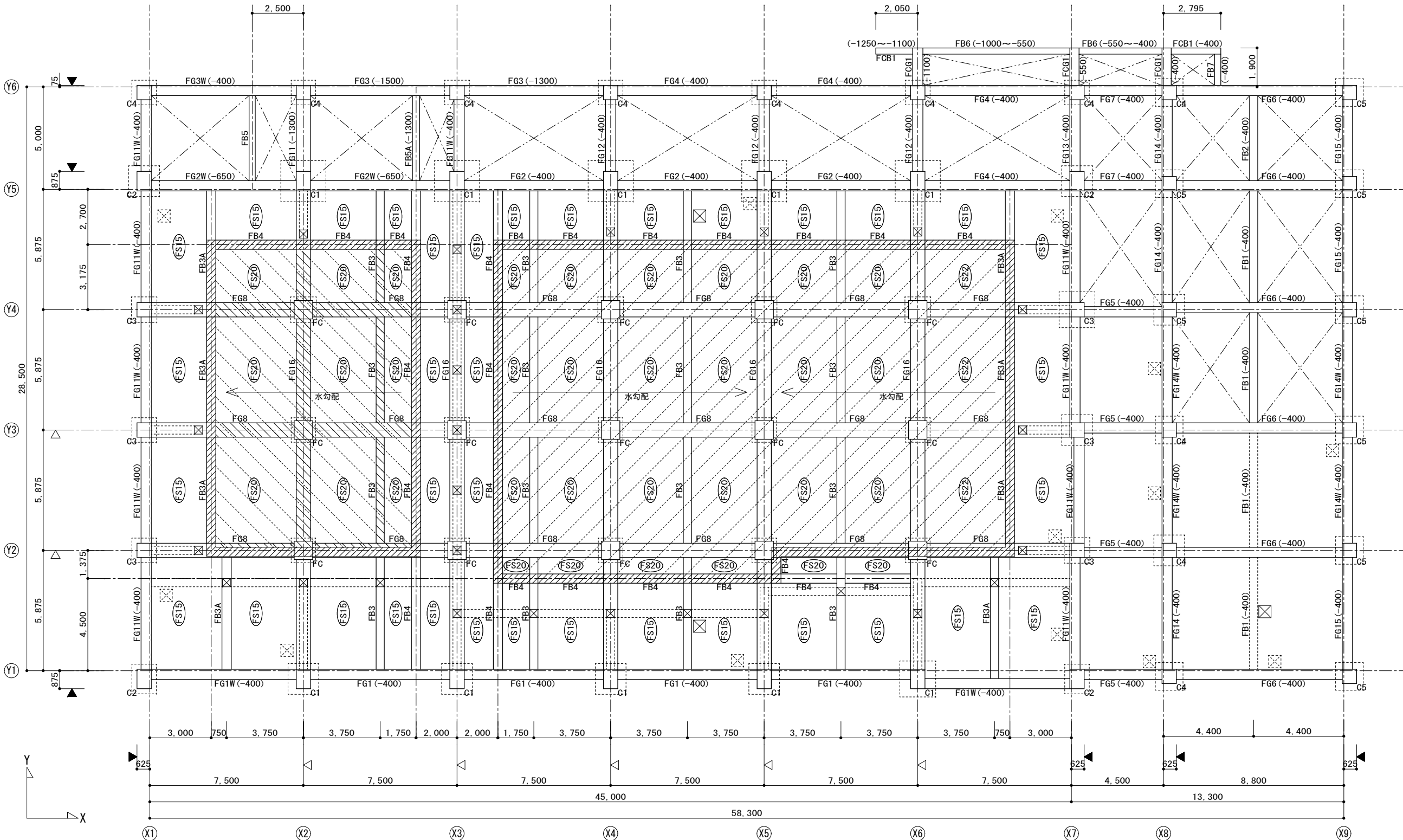
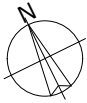


阿 賀 野 市

工事名称
学校屋内プール整備工事（建築）
図面名称
基礎杭伏図

区分
実施設計
縮尺
A1- 1 : 100
A3- 1 : 200

図面番号
S-05
意
電

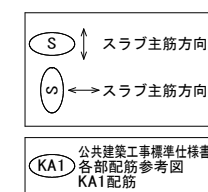


特記外は下記による	
△	柱芯を示す
◀	柱面を示す
⊠	束柱400x400
基礎梁天端	
1FL-1450	()は1FLからの梁天端を示す
25m槽	梁上打増し (FB4, FB3A)
335 ~ 535	25m槽 335 ~ 535 15m槽 735 ~ 835
15m槽	梁上打増し 400
プール室ビット度	
1FL-1900 t=150	上打増 50
25m槽 1FL-1200 ~ -1000 t=200	
15m槽 1FL-800 ~ -700 t=200	
一般配管ビット度	
1FL-1600 t=100	防湿コン
ワイヤーメッシュ 6φ-100x100	
埋戻し範囲を示す	
釜場600x600	
床下点検口600x600	

ビット基礎梁伏図 S=1/100
(見下げ図)

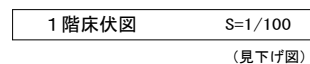
阿 賀 野 市

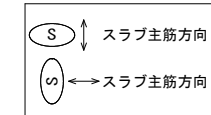
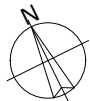
工事名称 学校屋内プール整備工事（建築）	区分 実施設計	図面番号 S-06
図面名称 ビット基礎梁伏図	縮尺 A1- 1 : 100 A3- 1 : 200	番 機 電 機



	柱芯を示す
	柱面を示す
	東柱400x400
設計GL	1FL-1200
基礎梁天端	1FL-400
小梁天端	1FL-220 (B3, CB1)
	()は1FLからの梁天端を示す
壁	W15

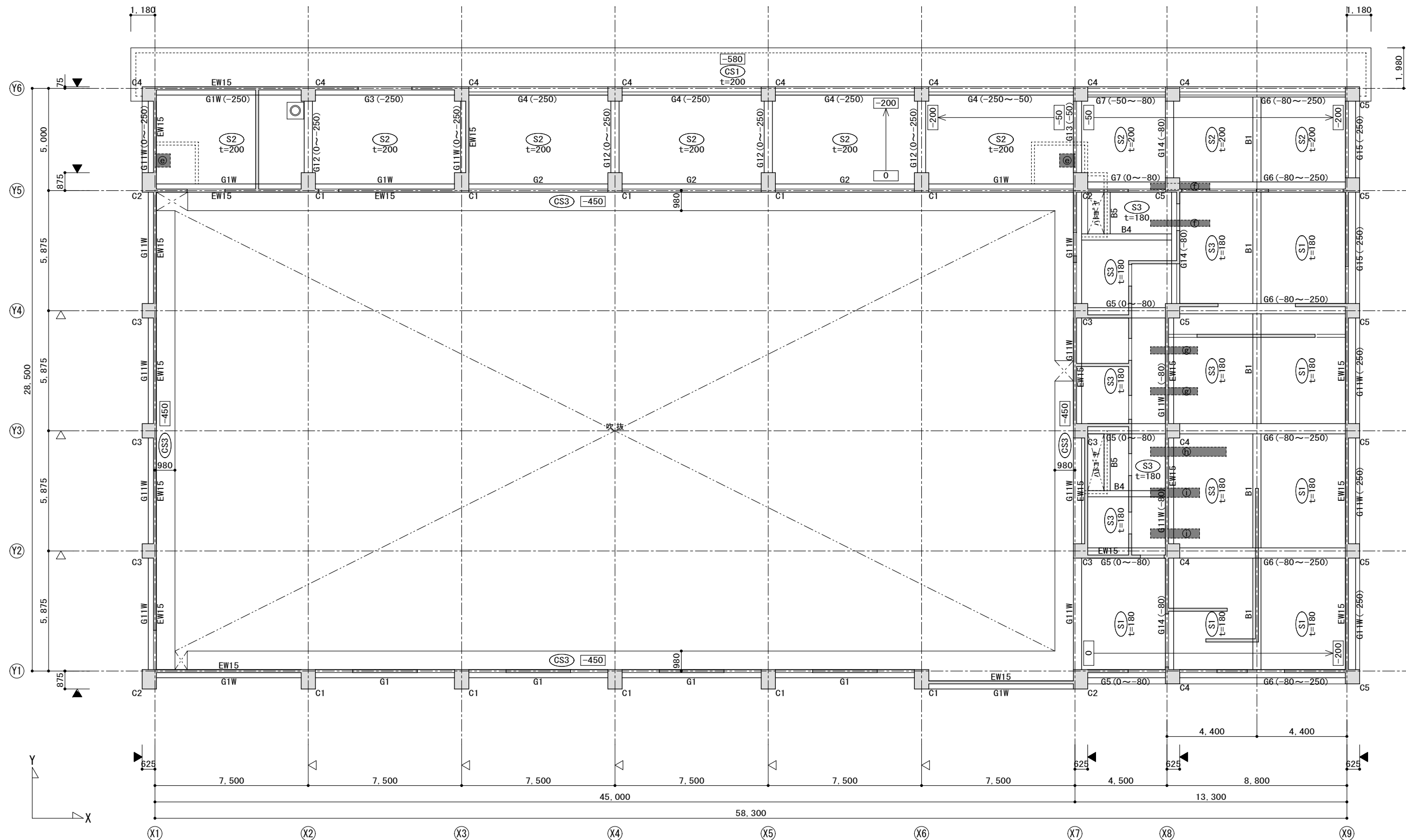
スラブ	1FL-10	t=150	
	内は1FLからのスラブ天端を示す		
	スラブ段差を示す		
	フルサイド		
	1FL-50	t=150	上打増 30～50
	床下点検口600x600		
	機械基礎を示す		





特記外は下記による
柱芯を示す
柱面を示す
梁天端 R1SL±0
()はR1SLからの梁天端を示す
壁 W15
スラブ t=150
内はR1SLからのスラブ天端を示す

パラペット t=150 h=R1SL+550
機械基礎を示す



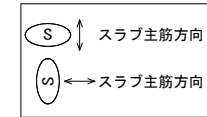
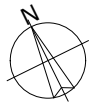
R1SL床梁伏図 S=1/100
(見上げ図)

阿 賀 野 市

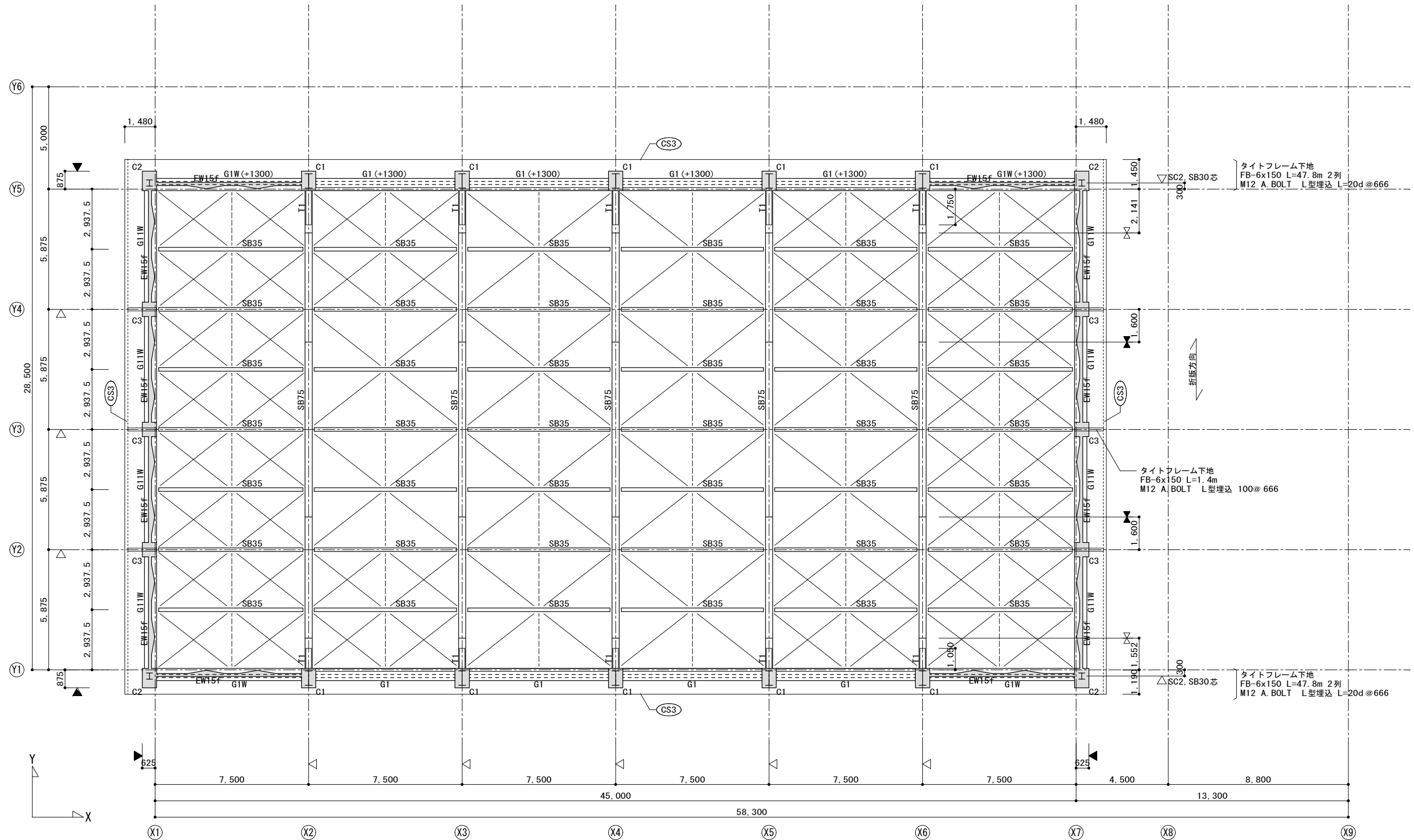
工事名称
学校屋内プール整備工事（建築）
図面名称
R1SL床梁伏図

区分
実施設計
縮尺
A1- 1 : 100
A3- 1 : 200

図面番号
S-08
意 構
電 機



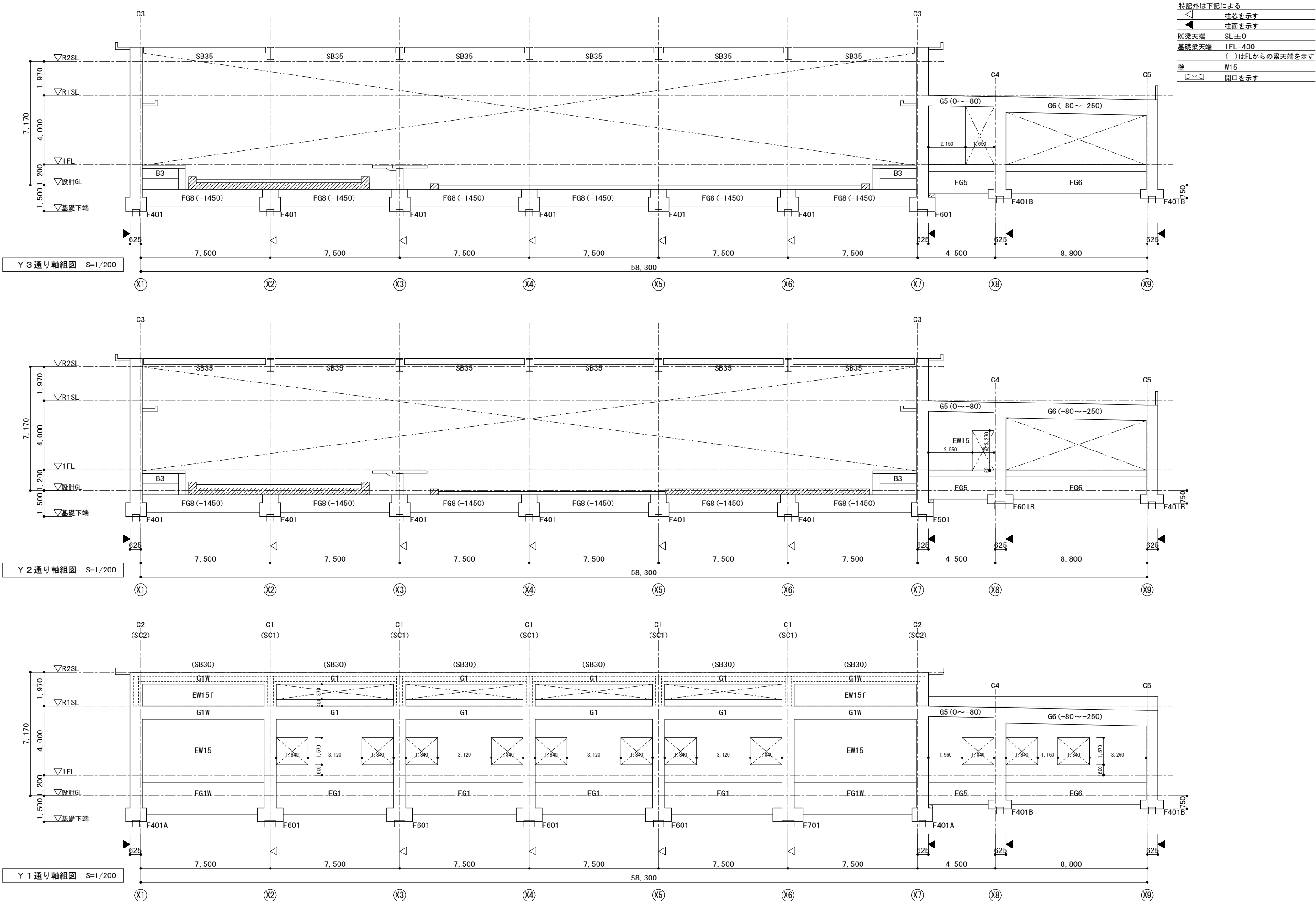
特記外は下記による			
柱芯を示す	鉄骨梁天端	水下基点R2SL-30, Y1+75	
柱面を示す		水上基点R2SL+1164, Y5±0	
梁天端	R2SL±0	SB35天端は折板に合わせて上げる	
()はR2SLからの梁天端を示す		ピンジョイント位置を示す	
スラブ	t=150	剛接合ジョイント位置を示す	
パラベット	t=150 h=250	b1	
屋根形状は意匠図による		SH1	



屋根伏図 S=1/100
(見上げ図)

阿 賀 野 市

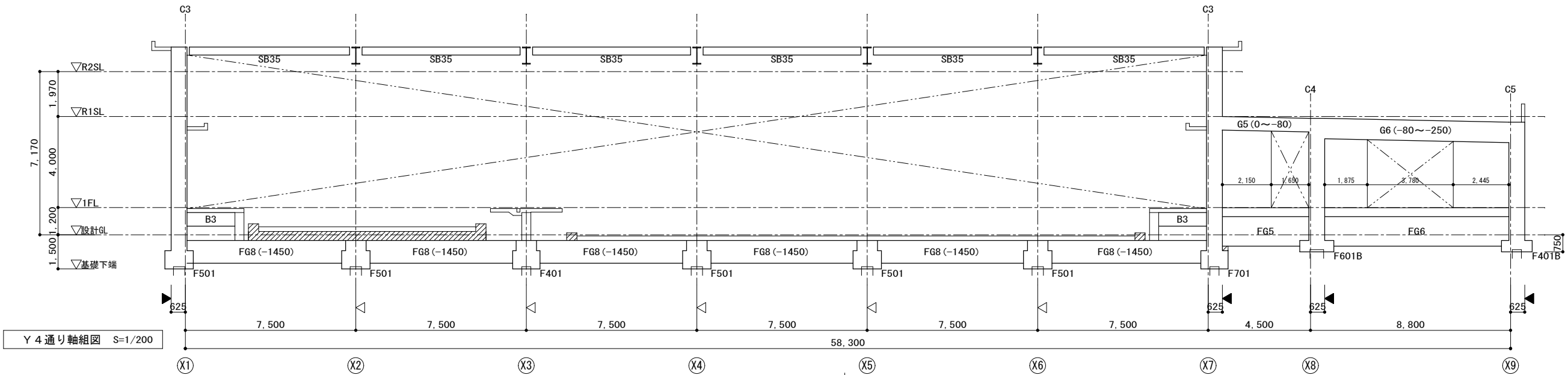
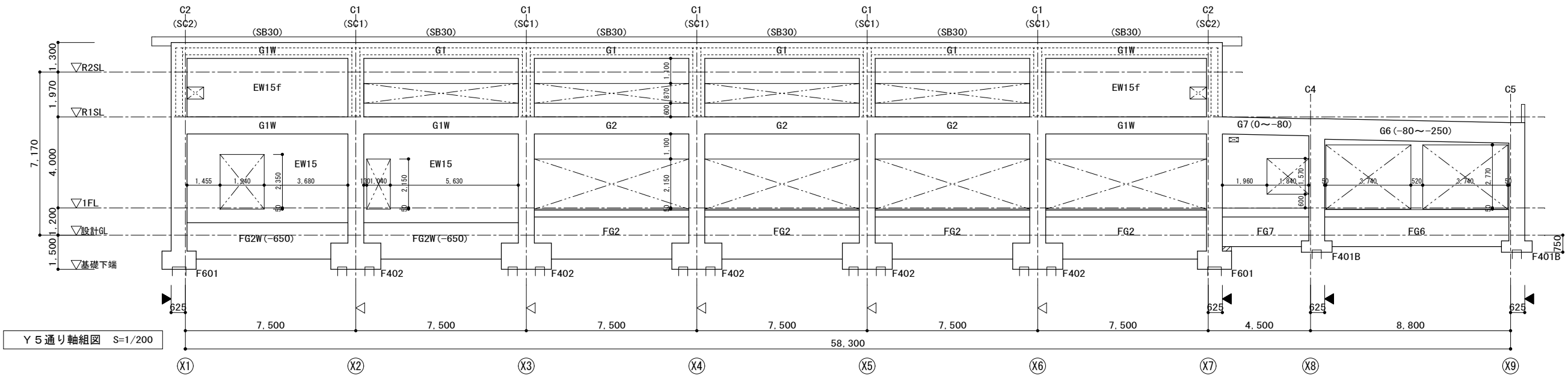
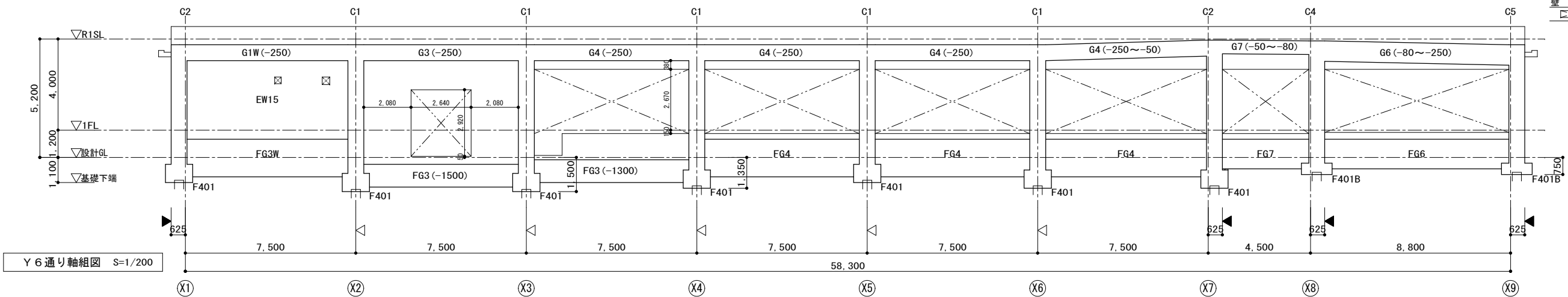
工事名称	区分	図面番号
学校屋内プール整備工事（建築）	実施設計	S-09
図面名称	縮尺	窓 構
屋根伏図	A1- 1 : 100 A3- 1 : 200	電 機



阿賀野市

工事名称 学校屋内プール整備工事（建築）	区分 実施設計	図面番号 S-10	
	縮尺 A1- 1 : 100 A3- 1 : 200	窓	機
図面名称 軸組図（1）		電	機

特記外は下記による
柱芯を示す
柱面を示す
RC梁天端 SL±0
基礎梁天端 1FL-400
()はFLからの梁天端を示す
壁 W15
開口を示す

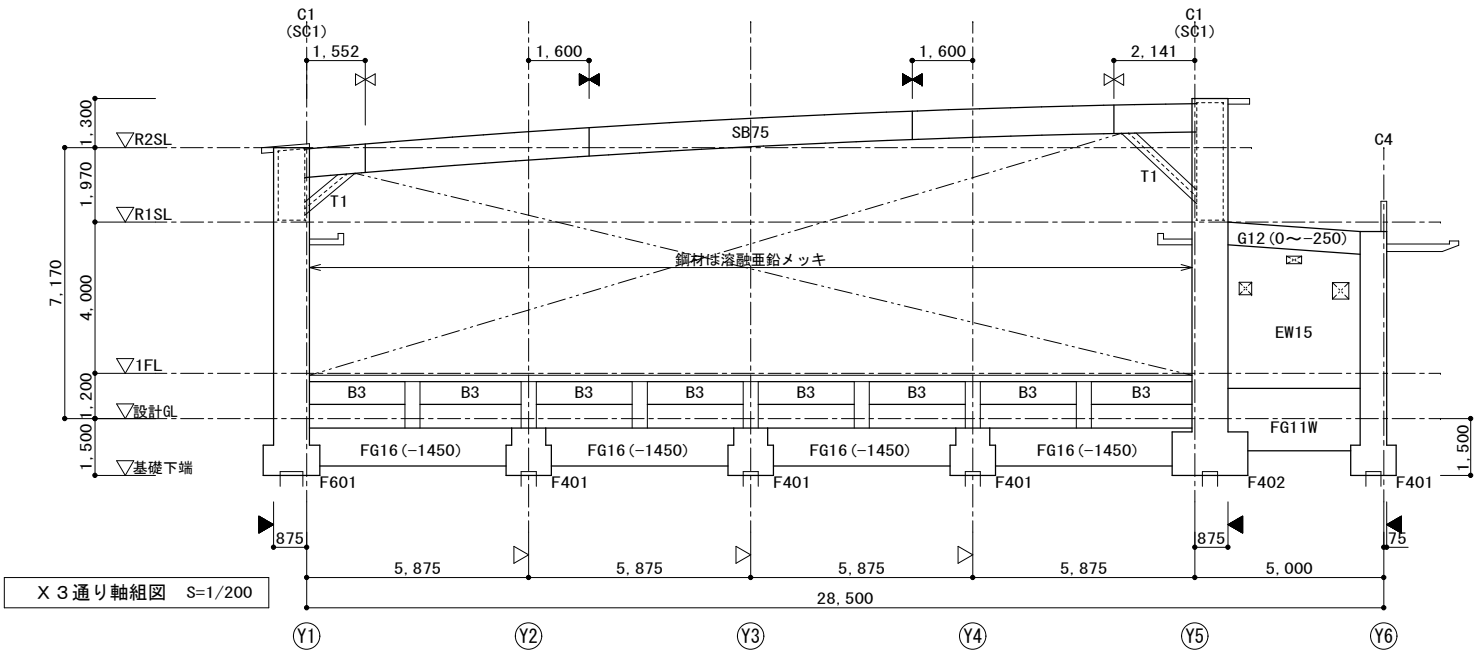
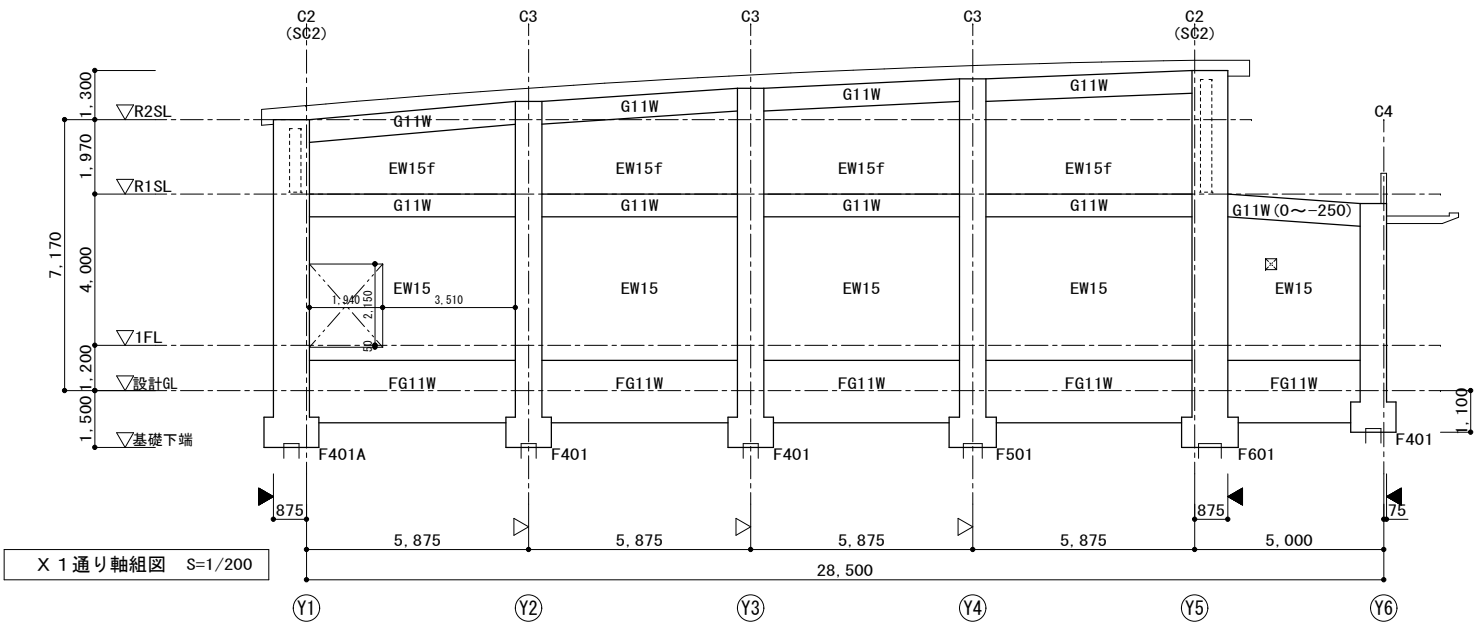
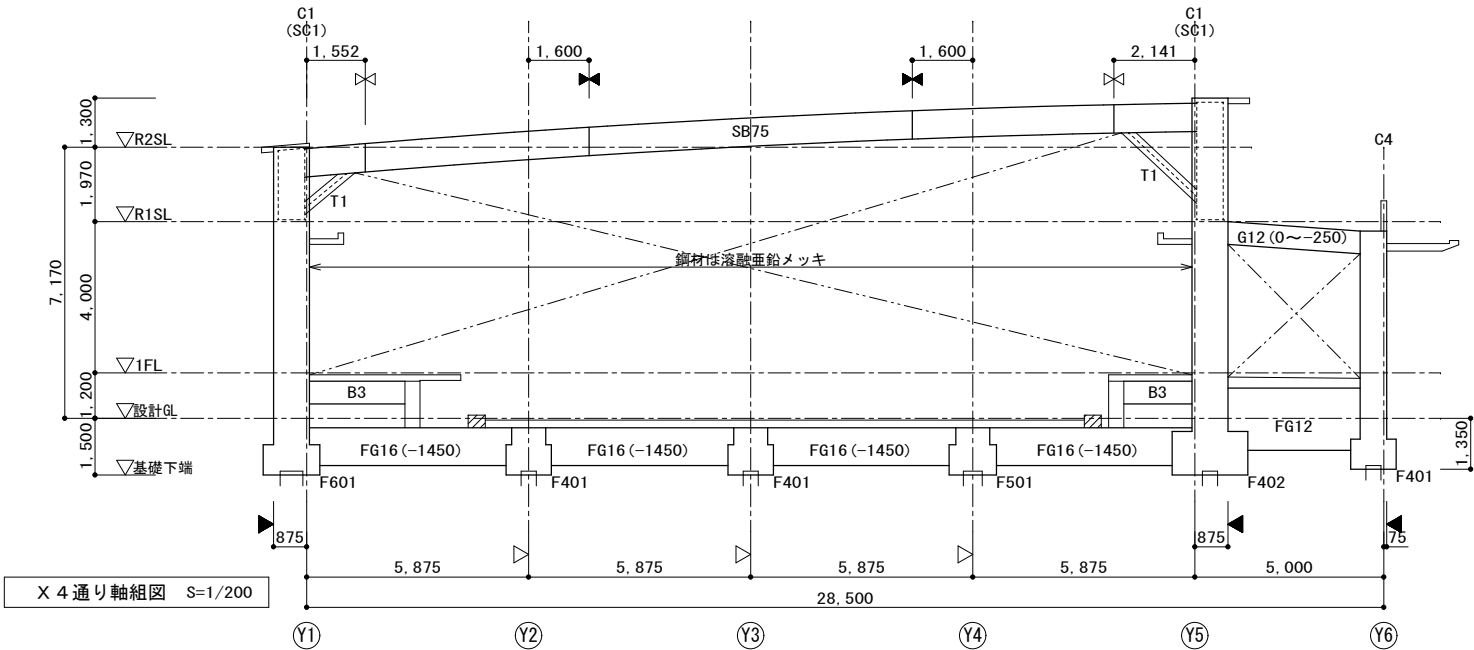
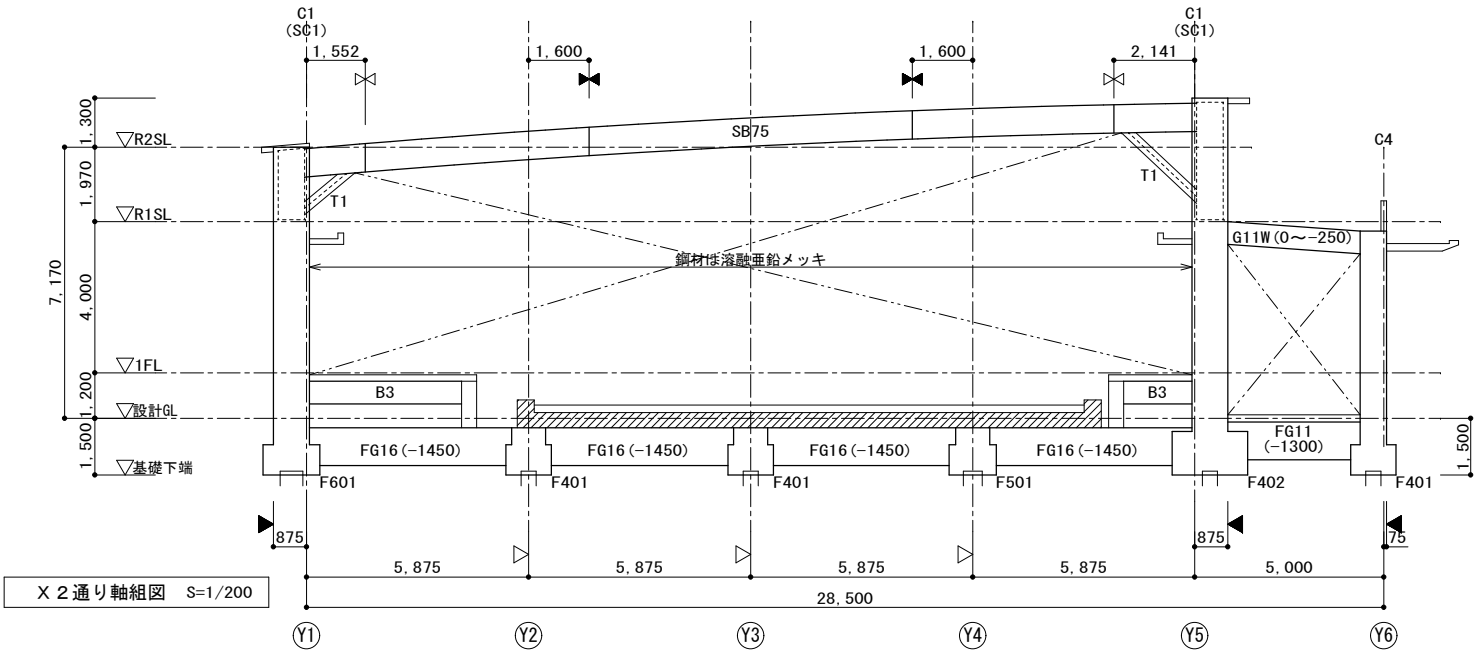


阿賀野市

工事名称 学校屋内プール整備工事（建築）	区分 実施設計	図面番号 S-11
図面名称 軸組図（2）	縮尺 A1- 1 : 100 A3- 1 : 200	窓 電 機

- 特記外は下記による
- 柱芯を示す
 - 柱面を示す
 - RC梁天端 SL±0
 - 基礎梁天端 1FL-400
 - ()はFLからの梁天端を示す
 - ピンジョイント位置を示す
 - 剛接合ジョイント位置を示す
 - 壁 W15
 - 開口を示す

SB75はR328.6mで高周波曲げ加工を行い、さらに中央部を40mmむくり加工とする

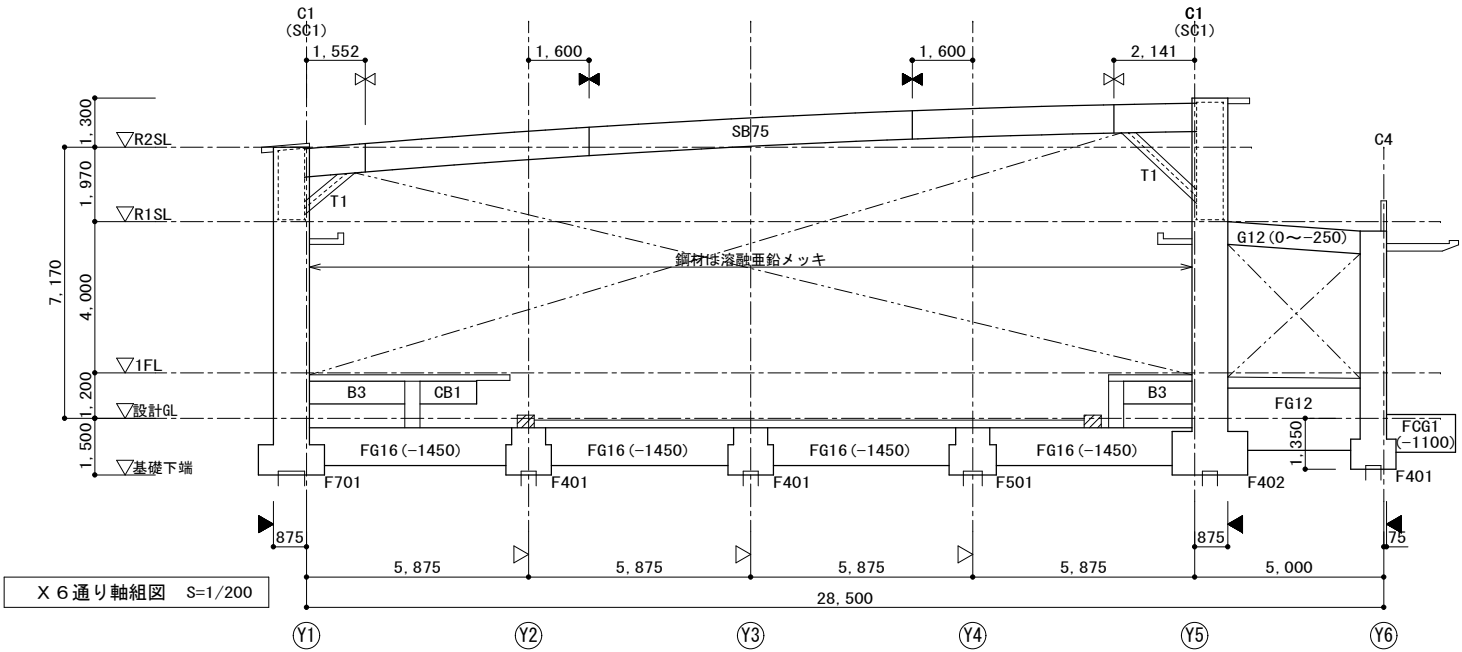


阿賀野市

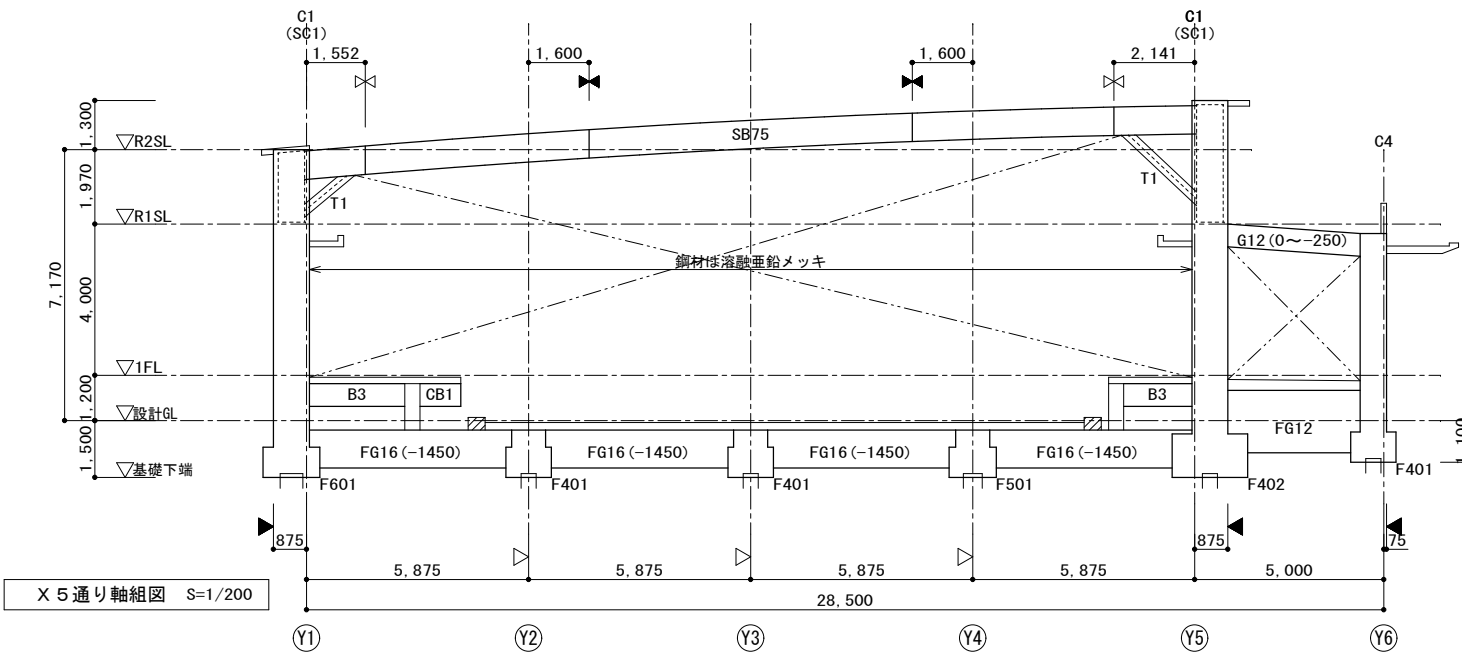
工事名称 学校屋内プール整備工事（建築）	区分 実施設計	図面番号 S-12
図面名称 軸組図（3）	縮尺 A1- 1 : 100 A3- 1 : 200	意 電 機

- 特記外は下記による
- 柱芯を示す
 - 柱面を示す
 - RC梁天端 SL±0
 - 基礎梁天端 1FL-400
 - ()はFLからの梁天端を示す
 - ピンジョイント位置を示す
 - 剛接合ジョイント位置を示す
 - 壁 W15
 - 開口を示す

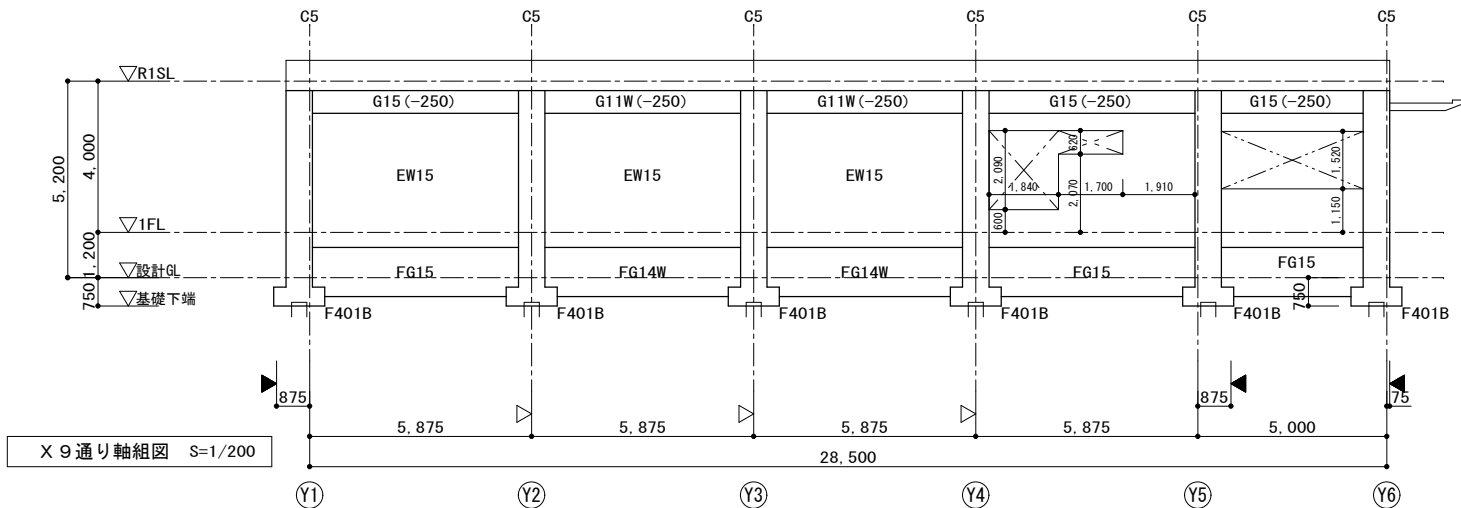
SB75はR328.6mで高周波曲げ加工を行い、さらに中央部を40mmむくり加工とする



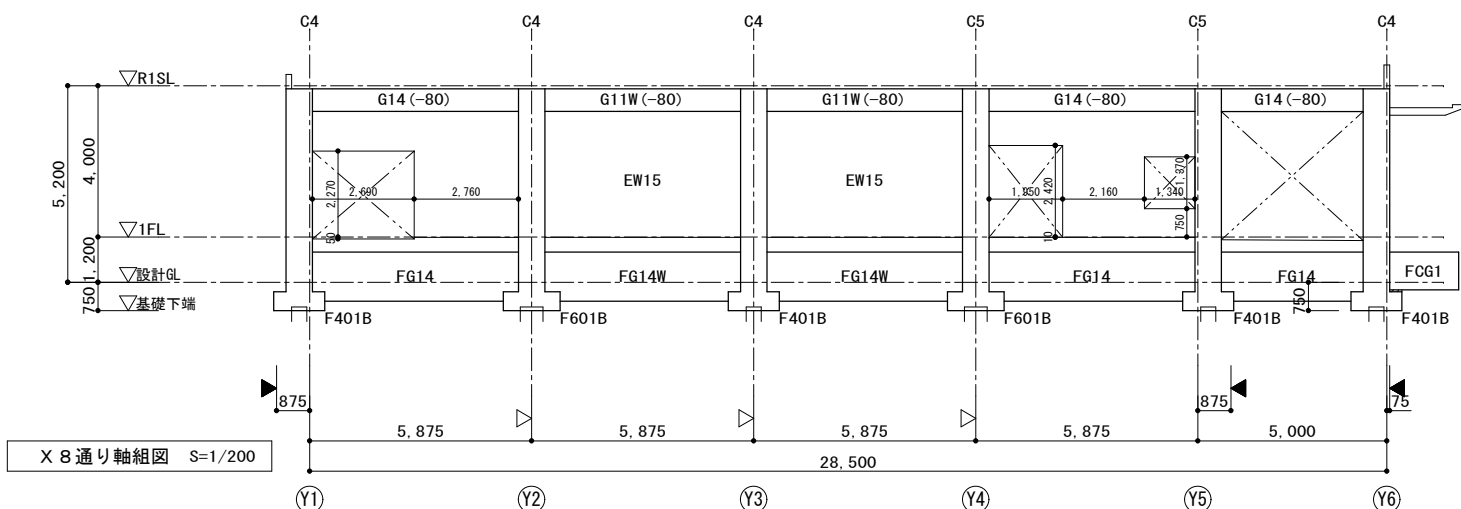
X 6 通り軸組図 S=1/200



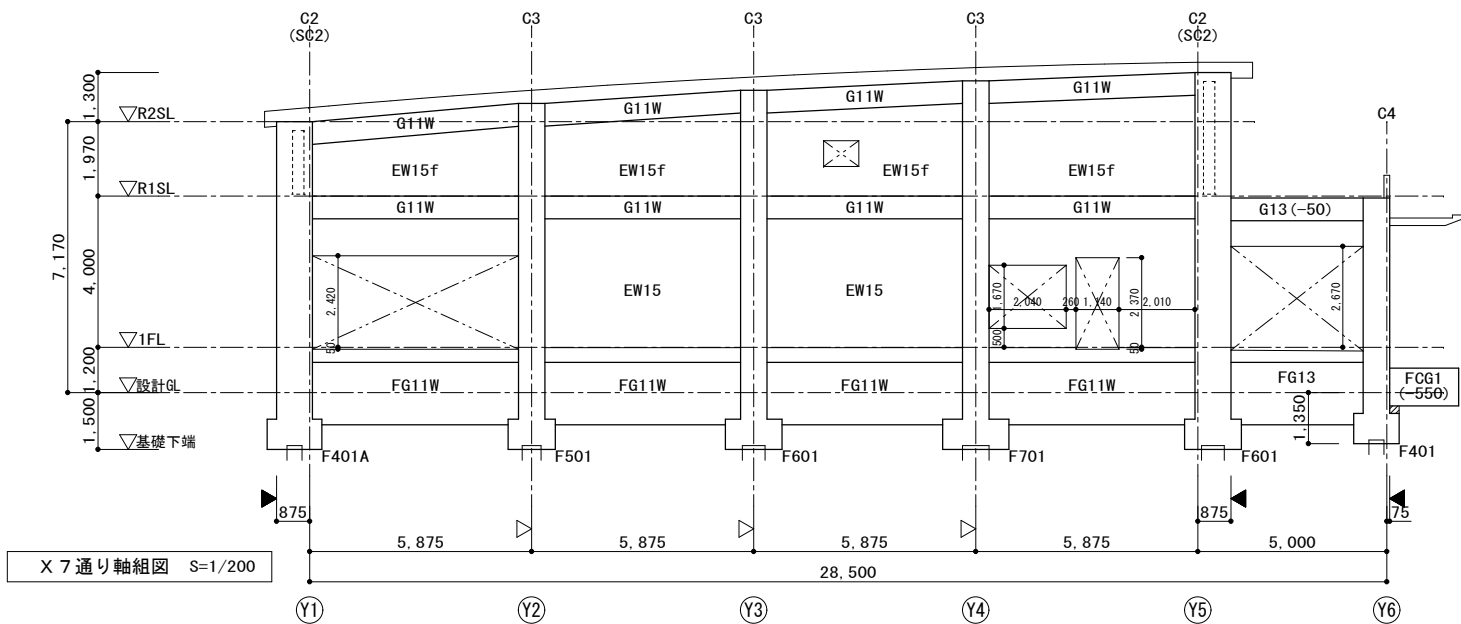
X 5 通り軸組図 S=1/200



X 9 通り軸組図 S=1/200



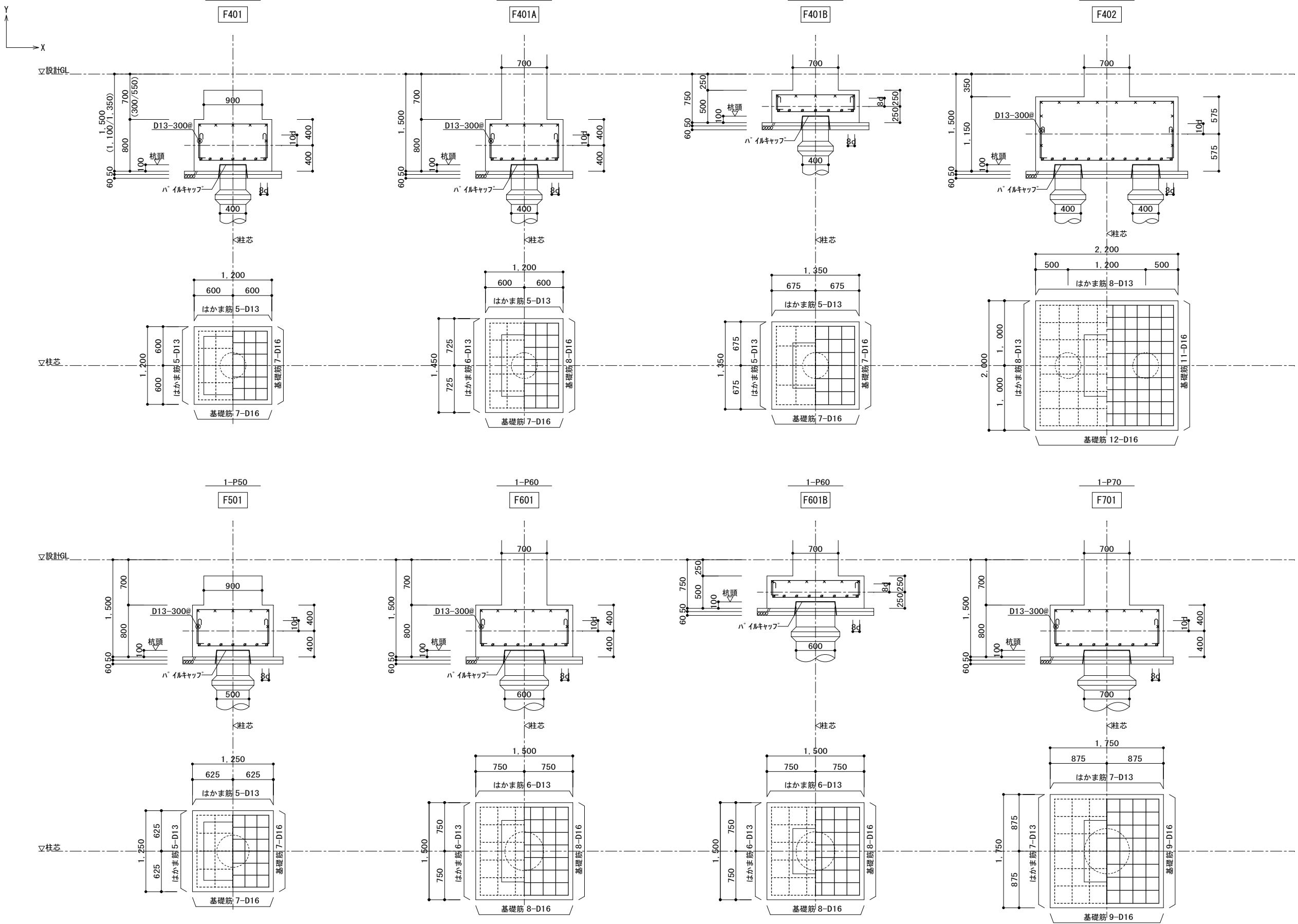
X 8 通り軸組図 S=1/200



X 7 通り軸組図 S=1/200

阿 賀 野 市

工事名称 学校屋内プール整備工事（建築）	区分 実施設計	図面番号 S-13
図面名称 軸組図（4）	縮尺 A1- 1 : 100 A3- 1 : 200	意 図 電 機



阿 賀 野 市

工事名称 学校屋内プール整備工事（建築）	区分 実施設計	図面番号 S-14
図面名称 基礎リスト	縮尺 A1- 1 : 30 A3- 1 : 60	電 機

基礎大梁リスト 1:60 幅止め筋はD10-〃-900@程度とする

符 号	FG1	FG1W	FG2	FG2W	FG3	FG3W	FG4	FG5	FG6		FG7
位 置	全 断	全 断	全 断	全 断	全 断	全 断	全 断	全 断	内 端 ・ 中 央	外 端	全 断
断 面											
上 端 筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	9-D25	7-D25	6-D25	7-D25
下 端 筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25
STP	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@150	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@150	D13-□-@200		D13-□-@150
腹 筋	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	2-D13	6-D13	6-D13	4-D13	4-D13		4-D13

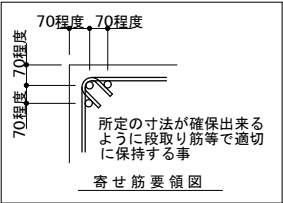
符 号	FG8	FG11	FG11W	FG12	FG13	FG14	FG14W	FG15	FG16	FCG1	
位 置	全 断	全 断	全 断	全 断	全 断	全 断	全 断	全 断	全 断	他 端 ・ 中 央	
断 面											
上 端 筋	12-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	14-D25	5-D25	
下 端 筋	12-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	12-D25	5-D25	
STP	D13-□-@150	D13-□-@150	D13-□-@200	D13-□-@150	D13-□-@150	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@150	D13-□-@200	
腹 筋	2-D13	2-D13	6-D13	6-D13	6-D13	4-D13	4-D13	4-D13	2-D13	2-D13	

基礎小梁リスト 1:60 幅止め筋はD10-〃-900@程度とする

符 号	FB1			FB2		FB3			FB3A	FB4	FB5	FB5A		FB6	FB7	FCB1
位 置	外 端	中 央	内 端	両 端 ・ 中 央	内 端	外 端	中 央	内 端	全 断	全 断	全 断	両 端 ・ 中 央	内 端	全 断	全 断	全 断
断 面																
上 端 筋	4-D25	4-D25	7-D25	4-D25	7-D25	4-D25	4-D25	7-D25	4-D25	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D19	3-D22
下 端 筋	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D22	3-D22	3-D22	6-D22	3-D22	3-D19	3-D22
STP	D13-□-@150			D13-□-@150		D13-□-@150			D13-□-@150	D13-□-@150	D13-□-@200	D13-□-@200		D10-□-@200	D10-□-@200	D10-□-@200
腹 筋	2-D10			2-D10		2-D10			2-D10	2-D10	2-D10	2-D10		2-D10	2-D10	2-D10

柱リスト 1:60		柱梁接合部内H00Pは100@個とする。(中子無し) ⌒ は寄せ筋とする。鉄骨貫通STPIはフレア溶接とする(片面10d以上、両面5d以上)					
階	符 号	C1	C2	C3	C4	C5	東 柱
R1SL	断 面 	SC1内蔵 	SC2内蔵 				
		主 筋 18-D29	主 筋 16-D25	主 筋 16-D25			
		帯 筋 D13-□-@100	帯 筋 D13-□-@100	帯 筋 D13-□-@100			
1SL	断 面 						
		主 筋 24-D29	主 筋 16-D25	主 筋 16-D25	主 筋 16-D25	主 筋 22-D25	主 筋 8-D16
		帯 筋 D13-□-@100	帯 筋 D13-□-@100	帯 筋 D13-□-@100	帯 筋 D13-□-@100	帯 筋 D13-□-@100	帯 筋 D10-□-@150

柱型リスト 1:60	
符 号	FC
断 面 	
	主 筋 16-D25 (四隅フック付き)
	帯 筋 D13-□-@100
T. H00P	2-□-D13

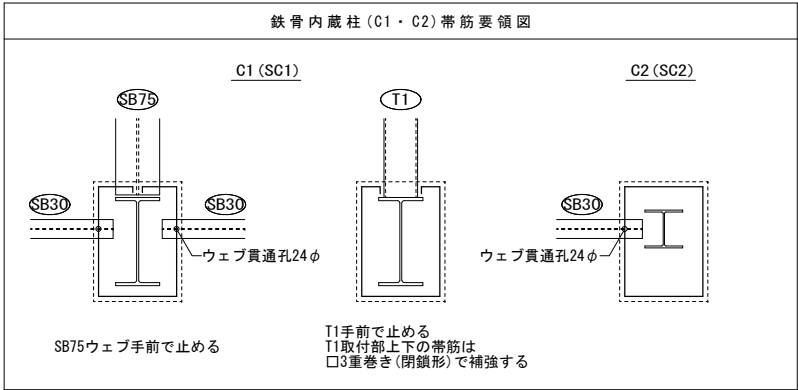


壁リスト 1:60

水平切断面を示す。継手長さはL1とする。

符 号		W15	EW15	EW15f
水 平 断 面				
縦 筋		D10—100@ シングル	D10—100@ シングル	D10—100@ シングル
横 筋		D10—100@ シングル	D10—100@ シングル	D10—100@ シングル※
開 口 部 端 部	縦 筋	1—D13	1—D13	1—D13
	横 筋	1—D13	1—D13	1—D13
	斜め筋	1—D13	1—D13	1—D13
幅止筋		—	—	—

※SC1,SC2のウェブ手前で立上げアンカー
SC2フランジにはスタッド溶接とする。



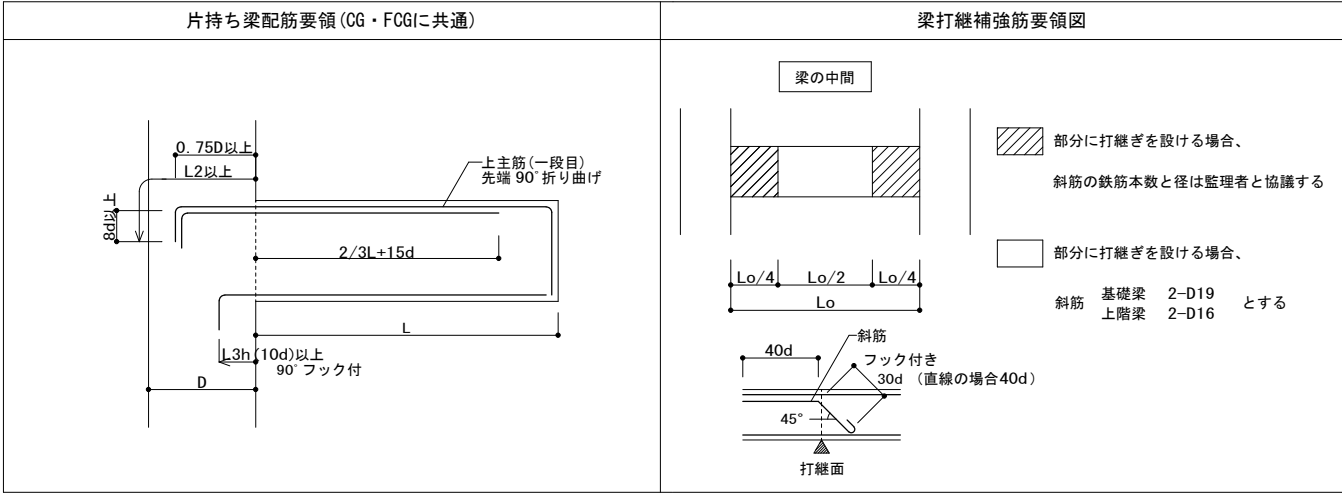
壁補強要領図		耐力壁 壁筋の定着	開口補強要領
壁 端 部 補 強			
<一般壁> 	<耐震壁>(EW) 		
<一般壁> 	<耐震壁>(EW) 		

大梁リスト 1:60

幅止め筋はD10-〆-1000@程度とする 鉄骨貫通STPはフレア溶接とする(片面10d以上、両面5d以上)

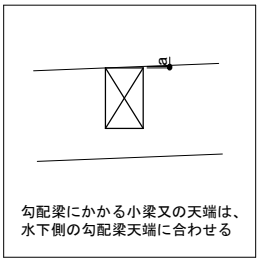
階	符 号	G1	G1W	G2		G3	G4		G5		G6			G7
R2SL	位 置	全 断	全 断											
	断 面													
	上 端 筋	3-D25	3-D25											
	下 端 筋	3-D25	3-D25											
	STP	D13-□-@200	D13-□-@200											
R1SL	位 置	全 断	全 断	両 端	中 央	全 断	両 端	中 央	X7端	中 央・X8端	X8端	中 央	X9端	全 断
	断 面													
	上 端 筋	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	6-D25	5-D25	4-D25	5-D25	8-D25	8-D25	8-D25	6-D25	5-D25
	下 端 筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	7-D25	5-D25	5-D25
	STP	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200		D13-□-@150	D13-□-@200		D13-□-@200		D13-□-@200			D13-□-@200
	腹 筋	2-D10	2-D10	2-D10		2-D10	2-D10		2-D10		4-D10			2-D10

階	符 号	G11W	G12		G13	G14	G15
R2SL	位 置	全 断					
	断 面						
	上 端 筋	3-D25					
	下 端 筋	3-D25					
	STP	D13-□-@200					
R1SL	位 置	全 断	Y5端・中央	右 端	全 断	全 断	全 断
	断 面						
	上 端 筋	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25
	下 端 筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	STP	D13-□-@200	D13-□-@200		D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200
	腹 筋	2-D10	2-D10		2-D10	2-D10	2-D10



小梁リスト 1:60 幅止め筋はD10-7-900@程度とする

符 号	B1			B2		B3		B4	B5	CB1
位 置	外 端	中 央	内 端	両 端 ・ 中 央	内 端	全 断	CB1連 続 端	全 断	全 断	全 断
断 面										
上 端 筋	4-D25	4-D25	7-D25	4-D25	7-D25	3-D19	6-D19	3-D22	3-D19	6-D19
下 端 筋	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D19	3-D19	3-D22	3-D19	3-D19
STP	D13-□-@150			D13-□-@150		D13-□-@200		D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@200
腹 筋	2-D10			2-D10		2-D10		2-D10	2-D10	2-D10

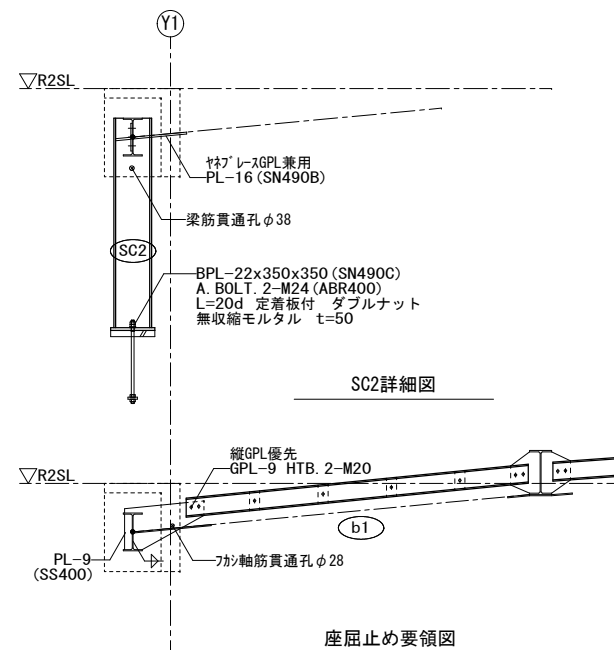
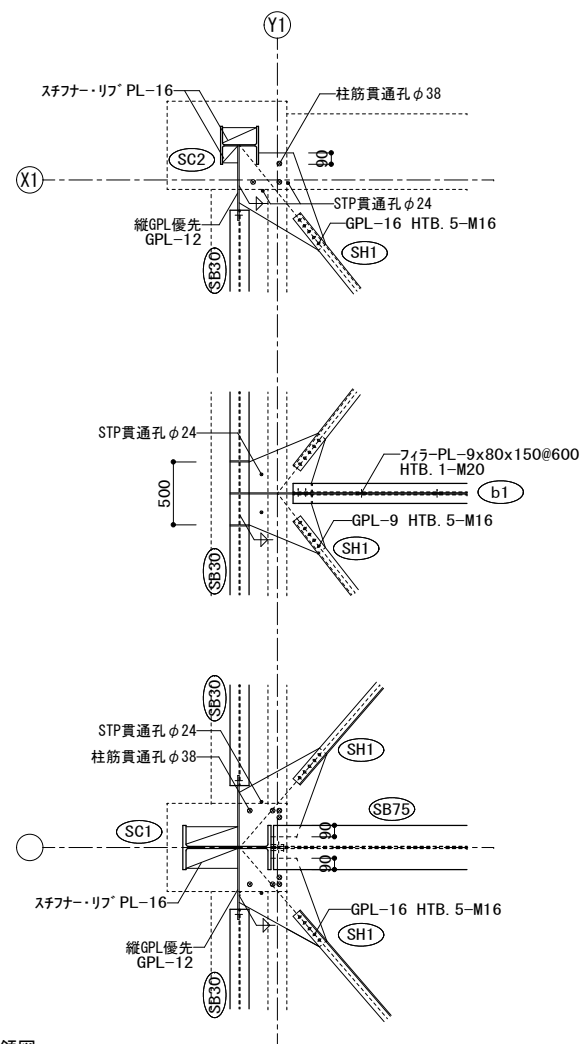
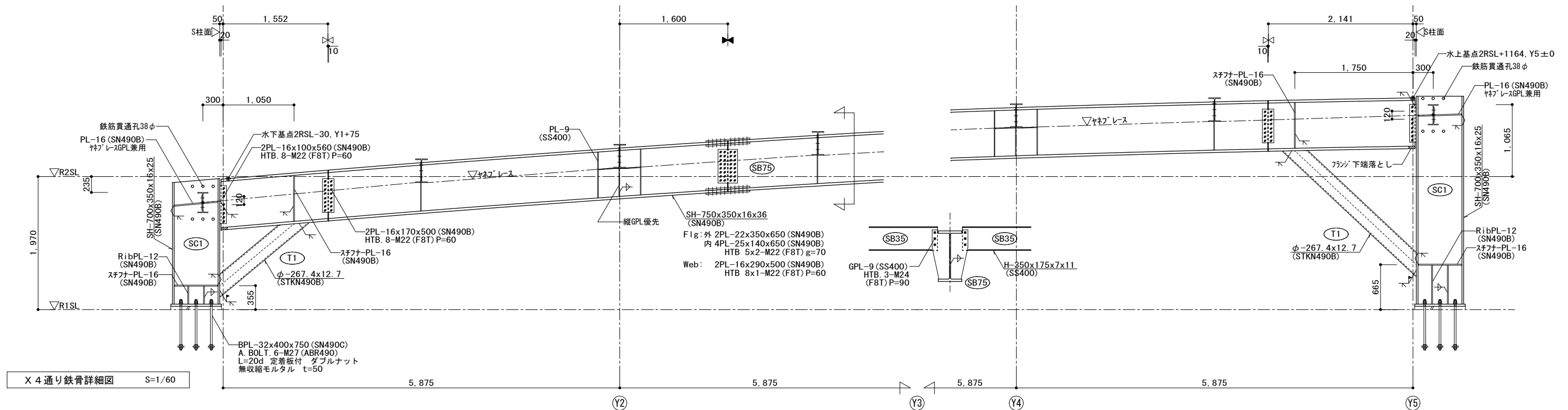


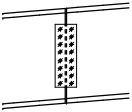
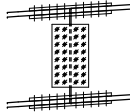
スラブリスト

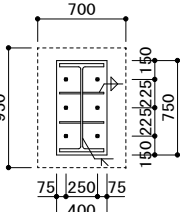
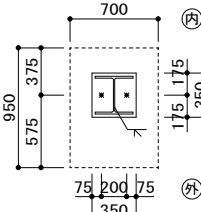
符 号	ス ラ ブ 厚 (m m)	位 置	主 力 筋 (短 辺 方 向)		配 力 筋 (長 辺 方 向)		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
S1	180	上 端 筋 下 端 筋	D10+D13-200@ D10+D13-200@	← ←	D10+D13-200@ D10+D13-200@	← ←	
S2	200	上 端 筋 下 端 筋	D13-200@ D10+D13-200@	← ←	D13-200@ D10+D13-200@	← ←	
S3	180	上 端 筋 下 端 筋	D13+D16-200@ D13-200@	← ←	D13+D16-200@ D13-200@	← ←	
S4	200	上 端 筋 下 端 筋	D16-200@ D13-200@	← ←	D13+D16-200@ D13-200@	← ←	
S5	150	上 端 筋 下 端 筋	D13-200@ D10+D13-200@	← ←	D10+D13-200@ D10+D13-200@	← ←	ブルサイド
S5A	150	上 端 筋 下 端 筋	D13-150@ D10+D13-150@	← ←	D10+D13-150@ D10+D13-150@	← ←	ブルサイド
S6	150	上 端 筋 下 端 筋	D13-100@ D10+D13-200@	← ←	D13-100@ D10+D13-200@	← ←	ブルサイド
S6A	150	上 端 筋 下 端 筋	D13-100@ D10+D13-200@	← ←	D13-75@ D10+D13-150@	← ←	ブルサイド
S7	150	上 端 筋 下 端 筋	D10+D13-200@ D10-200@	← ←	D10-200@ D10-200@	← ←	スロープ
CS1	200	上 端 筋 下 端 筋	D13-100@ D13-200@	← ←	D10+D13-200@ D10+D13-200@	← ←	大庇
CS2	150	上 端 筋 下 端 筋	D13-100@ D10+D13-200@	← ←	D10+D13-200@ D10+D13-200@	← ←	ブルサイド
CS3	150	上 端 筋 下 端 筋	D13-200@ D10+D13-200@	← ←	D10-200@ D10-200@	← ←	屋根庇 キャットウォーク
CS4	200	上 端 筋 下 端 筋	D13-200@ D10+D13-200@	← ←	D10+D13-200@ D10+D13-200@	← ←	バルクタンク庫床
CS4	150～200	上 端 筋 下 端 筋	D13-200@ D10+D13-200@	← ←	D10+D13-200@ D10+D13-200@	← ←	バルクタンク庫屋根
FS15	150	上 端 筋 下 端 筋	D10+D13-200@ D10-200@	← ←	D10+D13-200@ D10-200@	← ←	ブル点検ビット底盤
FS20	200	上 端 筋 下 端 筋	D13-150@ D13-150@	← ←	D13-150@ D13-150@	← ←	ブル水槽底盤
FS22	220	上 端 筋 下 端 筋	D13-150@ D13-150@	← ←	D13-150@ D13-150@	← ←	ブル水槽底盤
1階床下地業							
1. スラブおよび底盤下部 : 捨てコン (厚50mm) + 砕石 (厚60mm)							
2. ブール水槽底盤下部 (FS20, FS22) : 砕石 (厚150mm)							
3. 防湿コンビット (t=100) : 捨てコン (厚50mm) + 砕石 (厚60mm)							

スラブ補強要領図

基準配筋図	屋根スラブ隅角部補強要領図	スラブ開口部の補強
スラブ段差補強要領図		片持ちスラブ配筋要領 (CS・FCSに適用)
出隅スラブ補強要領		

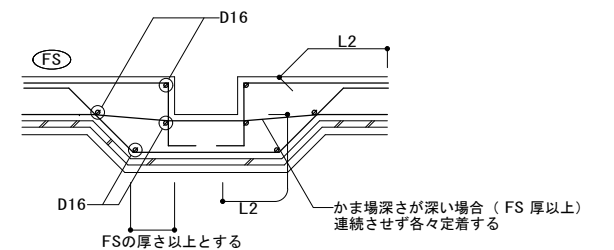
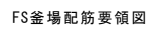
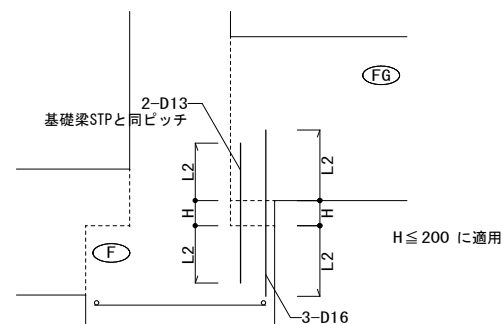
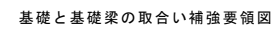
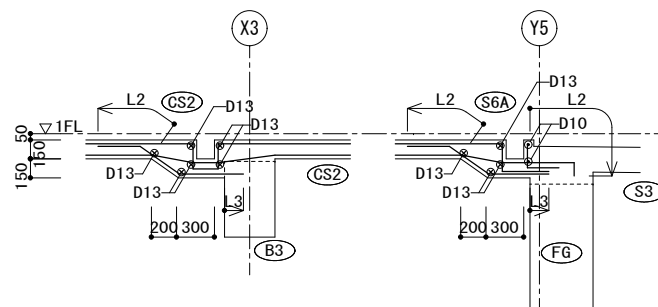
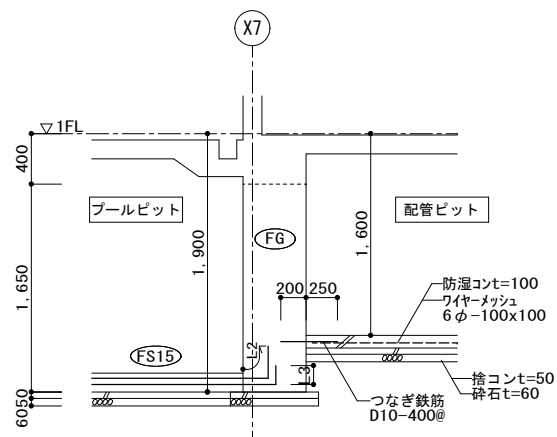
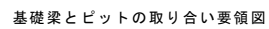
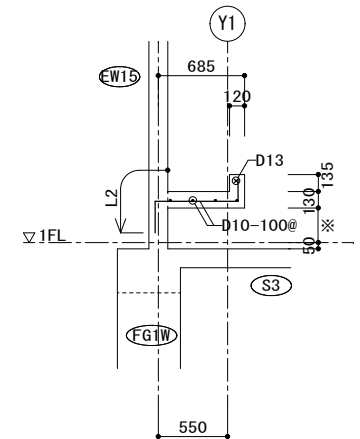
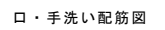
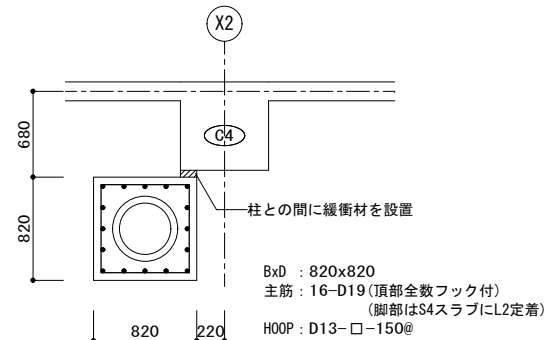
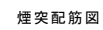
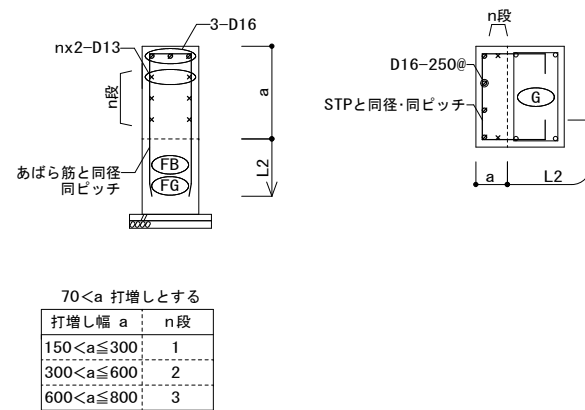
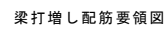
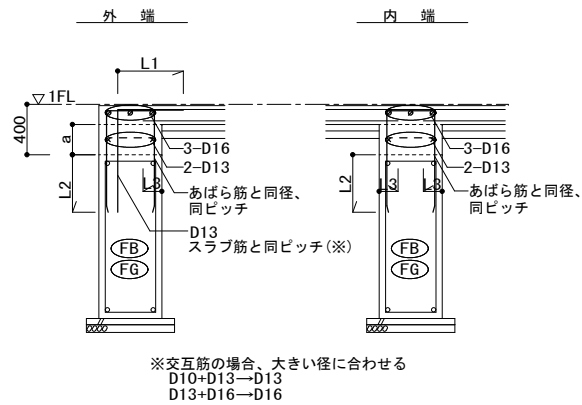
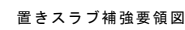
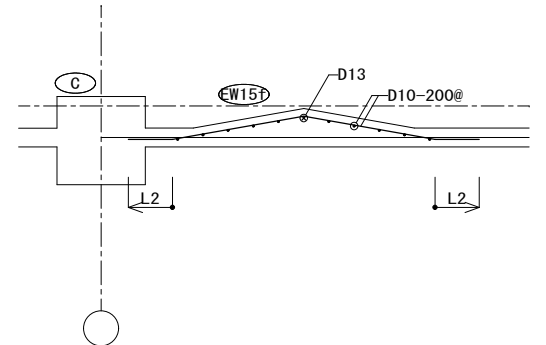
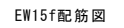
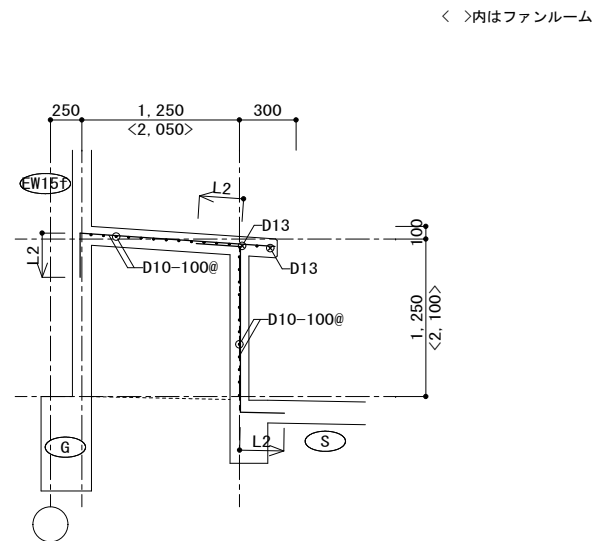
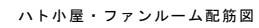
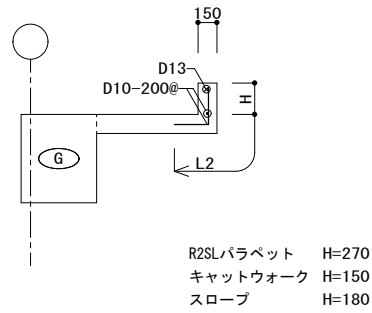
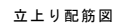
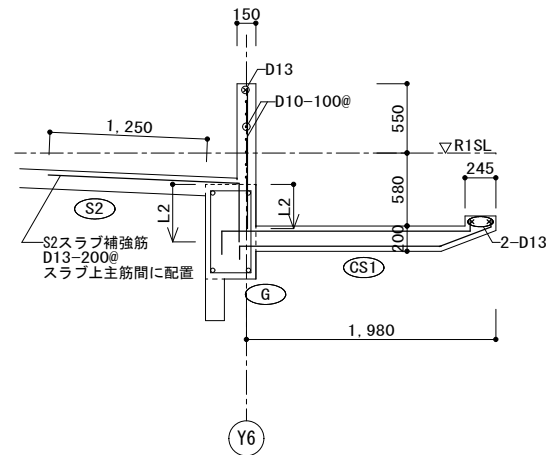


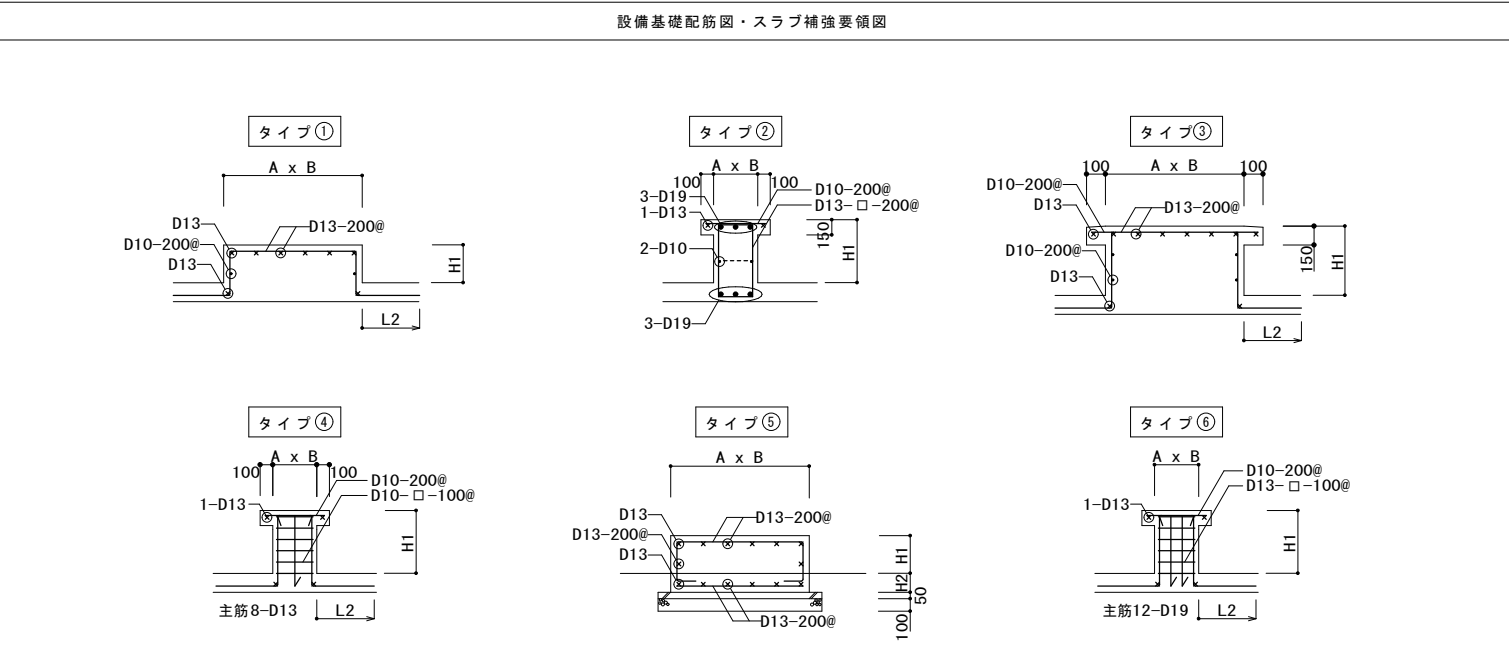
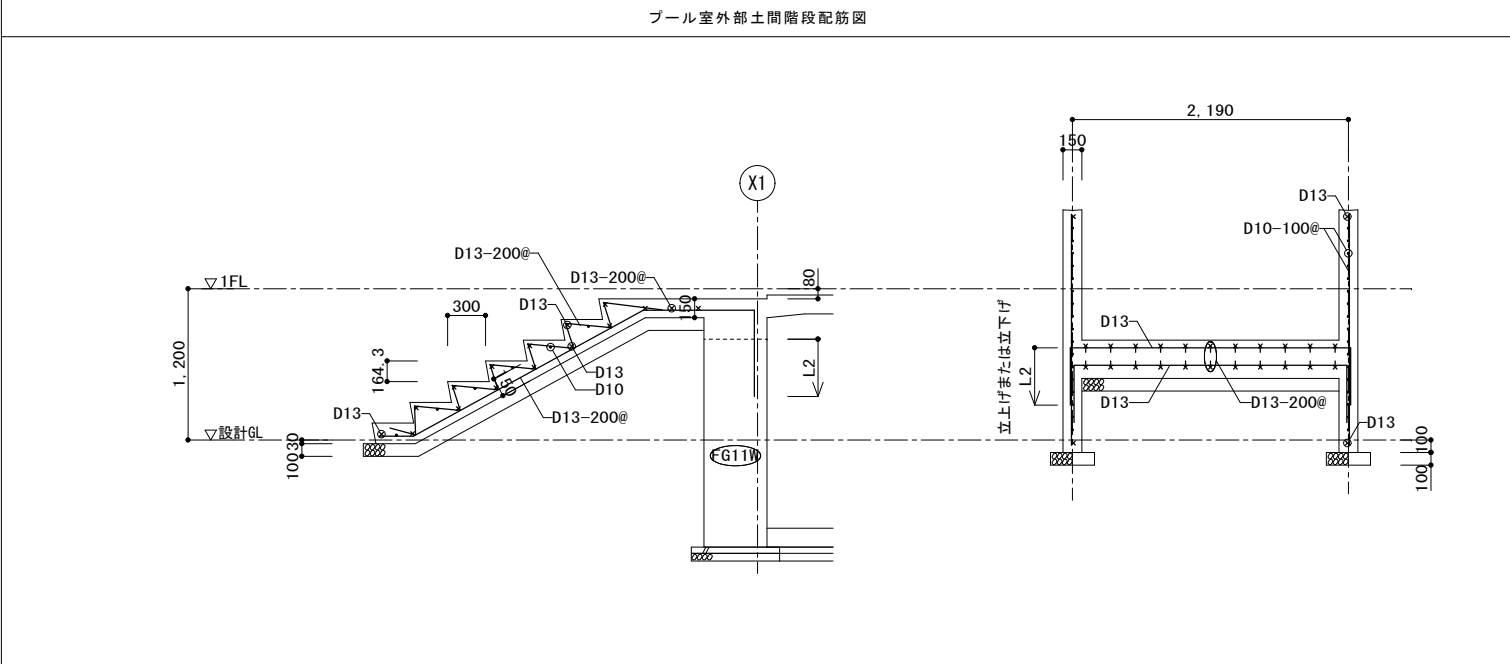
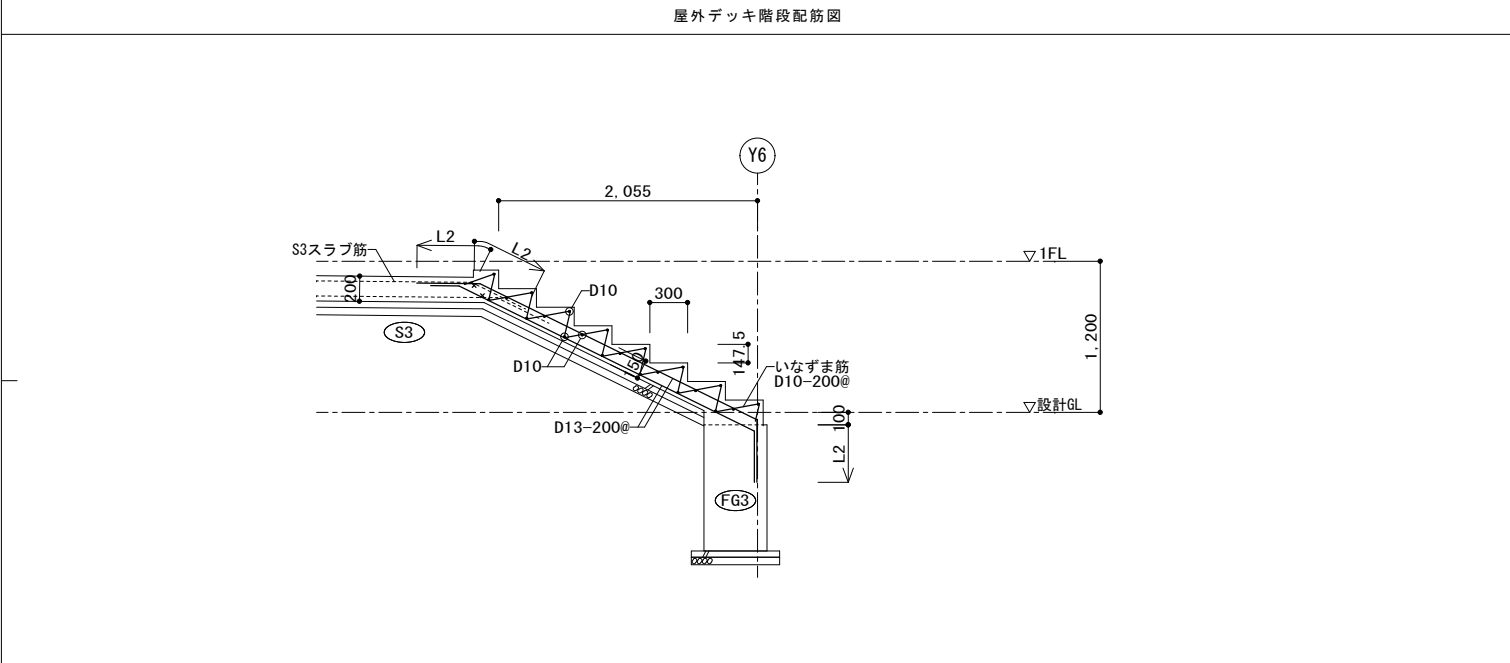
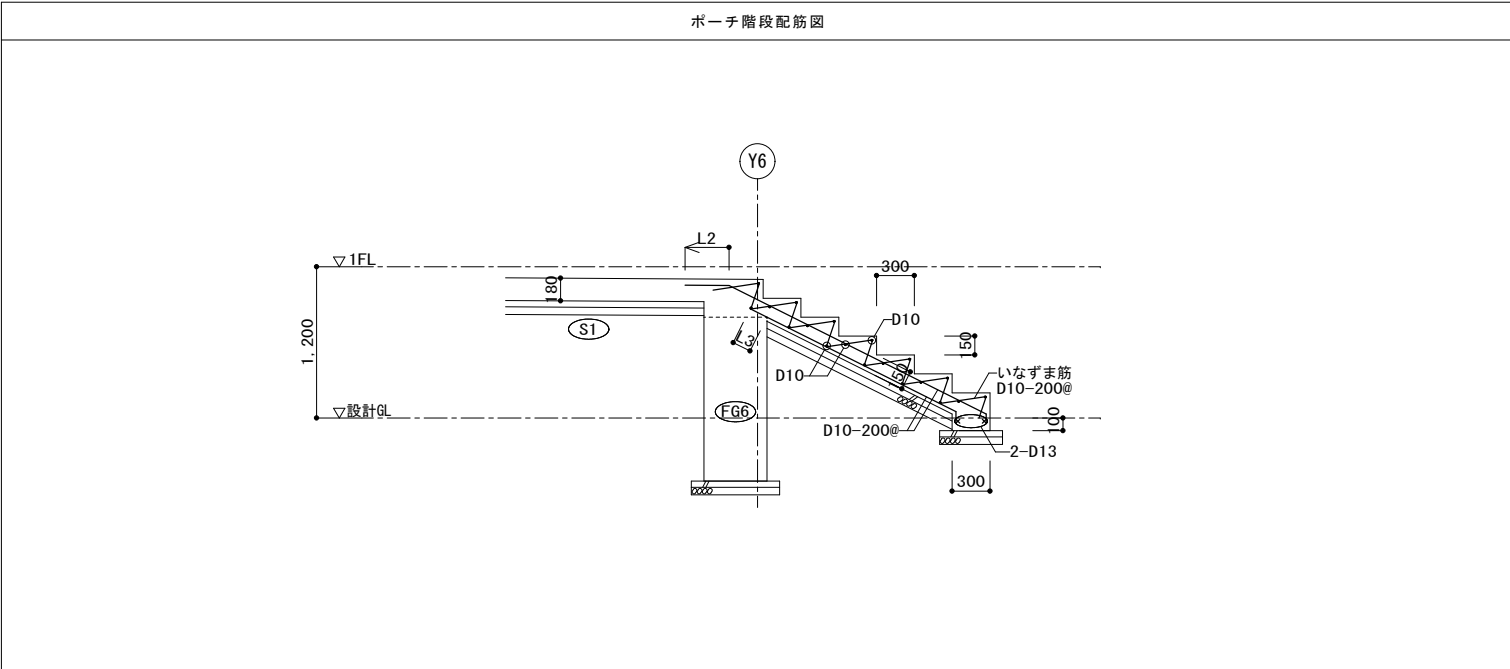
ジョイントリスト 1/60		特記なき限り 材質：SN490WB HTB.F8T	
符 号	SB75 (ヒンジジョイント)	SB75 (剛接合)	
R2SL			
断 面	SH-750x350x16x36	SH-750x350x16x36	
フ ラ ンジ		HTB 5x2-M22 外 2PL-22x350x650 内 4PL-25x140x650	
ウ ェ ブ	HTB 8x1-M22 2PL-16x170x500	HTB 8x1-M22 2PL-16x290x500	
備 考			

S柱リスト 1/60		材質：リブプレート・スチフナー・母材同材質	
符 号	SC1	SC2	
断 面	SH-700×350×16×25 (SN490B)	SH-300×300×10×15 (SN400B)	
階	R1SL	R1SL	
柱 脚			
B. PL	BPL-32×400×750 (SN490C)	BPL-22×350×350 (SN490C)	
Rib. PL	PL-12 H=355・H=665	-	
A. BOLT	6-M27 L=20d (ABR490) 定着板付き ダブルナット	2-M24 L=20d (ABR400) 定着板付き ダブルナット	
備 考	無収縮モルタル t=50	無収縮モルタル t=50	

型名		型名
符 号	SB35	
断 面	H-350x175x7x11 (SS400)	
階	R2SL	
軀体 定着部		
B. PL	BPL-22x620x420 (SN490C)	
A. BOLT	8-M20 L=20d (ABR400) 定着板付き ダブルナット	
備 考	無収縮モルタル t=30	

鉄骨部材リスト		特記なき限り 材質：ガセットプレート:SS400 スチフナー:母材同材質 HTB:S10T めっき:F8T		
符 号	断 面	材 質	備 考	
SB75	SH - 750x350x16x36 (めっき) R328.6mmで高周波曲げ加工 中央部を40mmむくり加工	SN490B	ジョイントはリストによる 端部仕口 : 2PL-16x100x560 HTB. 8-M22 (P=60) SH1取付部 (P=120) 裏当て金 : 16x16角鋼	
SB35	H - 350x175x 7x11 (めっき)	SS400	G・PL- 9 HTB. 3-M24 P=90	
SB30	H - 300x150x6.5x9	SS400	G・PL-12 HTB. 3-M20 P=70	
T1	φ - 267.4x12.7 (めっき)	STKN490B	柱・梁に溶接	
b1	2[- 150x 75x6.5x10 (めっき)	SS400	G・PL- 9 HTB. 2-M20 P=60 フィラーPL-9x80x150@600 HTB. 1-M20	
SH1	L - 75x 75x 9 (めっき)	SS400	一般部 : G・PL- 9 HTB. 5-M16 P=60 SC取付 : G・PL-16 HTB. 5-M16 P=60	
タイトフルーム下地	FB - 6x150 (RC部分) (めっき)	SS400	A. BOLT. M12 L型埋込100@666 (SS400)	
タイトフルーム受け (Y1, Y5)	□ -100x100x4.5 (めっき)	STKR400	A. BOLT. M16@600 L=20d (鉄骨手前でアンカー)	
折 板	ハゼ式 H≥165 t=0.8		働き幅333 負圧 : $1x \geq 389.8 \text{ cm}^4$ 負圧 : $Zx \geq 38.5 \text{ cm}^3$	
折板受	C - 100x 50x20x3.2 (めっき)	SSC400	L=300<小梁ピッチに合わせる SB75上に溶接	





記号	設置階	タイプ	A	B	H(H1)	(H2)	個数	備 考	記号	設置階	タイプ	A	B	H(H1)	(H2)	個数	備 考
㊦	1	①	意匠図による		150	－	1	機械室機械基礎	㊦	2	②	300	2900	600	－	2	室外機基礎
㊧	1	①	意匠図による		150	－	1	機械室機械基礎	㊧	2	②	350	2300	500	－	2	室外機基礎
㊨	1	①	意匠図による		150	－	1	機械室機械基礎	㊨	2	②	450	3700	500	－	1	室外機基礎
㊩	1	①	意匠図による		150	－	1	機械室機械基礎	㊩	2	②	450	2400	500	－	2	室外機基礎
㊪	2	①	650	750	100	－	2	ファンルーム基礎									

梁貫通孔の補強要領図

特記外は下記による
建築工事標準仕様書（令和7年版）に準ずる。
建築構造設計基準及び同解説（平成16年版）に準ずる。
S－O 1 構造共通事項の5. 鉄筋コンクリート工事（3）も併せて参照のこと

(1) 梁貫通リスト

配筋種別	斜 筋	縦 筋	横 筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H8	4-3-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H9	4-4-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

(2) 孔の上下方向の位置は下記に依る

孔の相互の間隔（中心間距離）は孔径の3倍以上とする

D	主 筋	
	1 段の場合	2 段の場合
500 ≤ D < 700	d ≥ 175	d ≥ 250
700 ≤ D < 900	d ≥ 200	d ≥ 275
900 ≤ D	d ≥ 250	d ≥ 325

(3) 梁貫通孔の可能範囲は下記に依る

① 範囲 h ≤ D/3
② 範囲 h ≤ D/4

原則、柱面から1.5D以上離す。柱面から0.5D以内には貫通孔を設けてはならない。
柱面から0.5D～1.5D以内に貫通孔を設ける場合、せん断余裕度を1.2倍以上確保する。（基礎梁は1.1倍）
人通孔は柱面から1.2D以上離す。
直交する小梁の面から400以上離す。
貫通孔の上下及び、斜め45° のエリアには貫通孔を設けない。
※既成品の梁貫通孔を使用する場合は監督員に確認後、その仕様準ずること

